

# 玉名市内遺跡調査報告書 11

— 平成 28・29 年度の調査 —

玉名市文化財調査報告  
第 41 集

平成  
31 年  
3 月

玉名市教育委員会

平成 31（2019）年 3 月

玉名市教育委員会





# 玉名市内遺跡調査報告書 11

— 平成 28・29 年度の調査 —

平成 31 年（2019）3 月

玉名市教育委員会





大塚古墳舟形石棺棺身 上面（保存修復後）



大塚古墳舟形石棺棺身 側面（保存修復後）



大塚古墳舟形石棺棺身 全体（保存修復後）



## 序 文

玉名市は、熊本県北西部に位置しており、古くから小岱山や菊池川、有明海の恩恵を受け、豊かな自然や温泉、歴史的資源に恵まれた地域です。旧石器時代から今日に至るまで長い歴史を持ち、装飾古墳をはじめ、旧干拓堤防施設など各時代の文化財が多く所在しております。特に菊池川流域における、弥生時代からの米作りにかかわるストーリーと構成文化財は、昨年度「日本遺産」として認定されたところです。

このような中で、玉名市教育委員会では、公共及び民間の様々な開発事業に対応しながら調整を図り、試掘・確認調査から発掘調査等を行っております。

また、市内に多く所在する遺跡の状況把握にも常に取り組み、埋蔵文化財行政の改善・充実に努力しています。

本書は、平成 28・29 年度に実施した各種開発に伴う確認調査・発掘調査などの成果をまとめたものです。本書が市民の方々の埋蔵文化財に対する理解の一助となり、広く教育・文化の発展に寄与できれば幸いに存じます。

平成 31 年 3 月 26 日

玉名市教育委員会

教育長 池田 誠一

## 例 言

1. 本書は、玉名市教育委員会が平成28・29年度に国庫補助を受けて実施した、玉名市内遺跡の調査報告書である。
2. 調査は、玉名市教育委員会文化課董父雅史、石松直、田熊秀幸が担当した。
3. 本書掲載遺構及びトレンチ等の実測図は、各調査担当者が作成した。
4. 遺物の実測は、菊池直樹が行い、デジタルトレースを江見恵留、菊池が担当した。
5. 調査時の写真撮影は、各調査担当者が行った。
6. 掲団に使用している座標は、玉名市役所税務課の地籍図等から転記した。座標値は、世界測地系の第2座標系に基づいており、方位は特に記載がない限り座標化を示す。
7. 同一年度に同遺跡の調査を複数行っている場合には、アルファベットによる調査地点名を付している。
8. 調査地の地番については、原則として文化財保護法に基づく届出・通知の際の地番を表示している。いくつかの調査地点については、分筆等により、新たな地番が付されている場合がある。
9. トレンチの表記は本文中を除きTと省略している。
10. 出土遺物の整理作業及び実測は、菊池が担当し、玉名市文化財整理室で行った。
11. 本書の執筆は、各担当者が調査後に作成した報文等をもとに、董父、菊池、石松、田熊が行い、全体の編集は、董父、菊池、江見が行った。

# 本文目次

序文

例言

本文目次

挿図目次

写真目次

表目次

## I 調査の概要

1 調査の体制	1
2 調査の方法	1
3 調査総括	1
4 活用	2

## II 平成 28 年度の調査

1 高岡原遺跡（A 地点）	8
2 浄光寺蓮華院跡	10
3 築地館跡（A 地点）	14
4 光善寺	16
5 高岡原遺跡（B 地点）	17
6 年の神遺跡	18
7 玉名平野遺跡群（A 地点）	19
8 春出遺跡	21
9 築光寺古墳	22
10 木船西遺跡	28
11 古閑遺跡（A 地点）	34

## III 平成 29 年度の調査

1 古閑遺跡（B 地点）	38
2 下立願寺遺跡群	39
3 烏井原遺跡	44
4 石橋遺跡	46
5 玉名平野遺跡群（B 地点）	48
6 今見堂遺跡	50
7 高岡原遺跡（C 地点）	52
8 浜田西原遺跡	53
9 築地館跡（B 地点）	54
10 山田神社門前遺跡群	55
11 京塚遺跡	56
12 古川遺跡	57

<b>IV 発掘調査</b>	
高岡原遺跡	62
<b>V 保存処理報告</b>	
大塚古墳舟形石棺保存修復業務委託	82
<b>観察表</b>	
奥付	
報告書抄録	

## 挿図目次

<b>I 調査の概要</b>	
第 1 図 平成 28 年度調査地位置図	3
第 2 図 平成 29 年度調査地位置図	4
<b>II 平成 28 年度の調査</b>	
第 3 図 高岡原遺跡（A 地点）調査地位置図	8
第 4 図 高岡原遺跡（A 地点）トレンチ配置図	8
第 5 図 高岡原遺跡（A 地点）遺構実測図	9
第 6 図 高岡原遺跡（A 地点）出土遺物実測図	9
第 7 図 浄光寺蓮華院跡調査地位置図	10
第 8 図 浄光寺蓮華院跡トレンチ配置図	10
第 9 図 浄光寺蓮華院跡遺構配置図	10
第 10 図 現在の蓮華院誕生寺正門周辺図	11
第 11 図 浄光寺蓮華院跡出土遺物実測図	11
第 12 図 浄光寺蓮華院跡トレンチ実測図	12
第 13 図 築地船跡（A 地点）調査地位置図	14
第 14 図 築地船跡（A 地点）トレンチ配置図	14
第 15 図 築地船跡トレンチ実測図	15
第 16 図 築地船跡土層柱状図	15
第 17 図 光善寺調査地位置図	16
第 18 図 光善寺トレンチ配置図	16
第 19 図 光善寺トレンチ土層柱状図	16
第 20 図 高岡原遺跡（B 地点）調査地位置図	17
第 21 図 高岡原遺跡（B 地点）トレンチ配置図	17
第 22 図 年の神遺跡調査地位置図	18
第 23 図 年の神遺跡トレンチ配置図	18
第 24 図 年の神遺跡トレンチ実測図と土層柱状図	18
第 25 図 玉名平野遺跡群（A 地点）調査地位置図	19
第 26 図 玉名平野遺跡群（A 地点）トレンチ配置図	19
第 27 図 玉名平野遺跡群（A 地点）トレンチ土層柱状図	20
第 28 図 玉名平野遺跡群（A 地点）トレンチ実測図	20
第 29 図 春出遺跡調査地位置図	21
第 30 図 春出遺跡トレンチ配置図	21
第 31 図 春出遺跡出土遺物実測図	21
第 32 図 春出遺跡トレンチ柱状図	21
第 33 図 藤光寺古墳調査地位置図	22
第 34 図 藤光寺古墳トレンチ配置図	22
第 35 図 藤光寺古墳遺構配置図	23
第 36 図 藤光寺古墳トレンチ実測図	23
第 37 図 藤光寺古墳出土遺物実測図	23
第 38 図 木船西遺跡調査地位置図	28
第 39 図 木船西遺跡トレンチ配置図	28
第 40 図 木船西遺跡トレンチ実測図 1	29
第 41 図 木船西遺跡トレンチ実測図 2	30
第 42 図 木船西遺跡トレンチ土層柱状図	30
第 43 図 古閑遺跡（A 地点）調査地位置図	34
第 44 図 古閑遺跡（A 地点）トレンチ配置図	34
第 45 図 古閑遺跡 A 地点遺構配置図（I ~ T）	35
第 46 図 古閑遺跡 A 地点 9T ~ 17T 土層柱状図	35
第 47 図 古閑遺跡 A 地点出土遺物実測図	35
第 48 図 古閑遺跡 A 地点平・断面図	36
<b>III 平成 29 年度の調査</b>	
第 49 図 古閑遺跡（B 地点）調査地位置図	38
第 50 図 古閑遺跡（B 地点）トレンチ配置図	38
第 51 図 古閑遺跡（B 地点）出土遺物実測図	38
第 52 図 古閑遺跡（B 地点）トレンチ実測図	38
第 53 図 下立願寺遺跡群調査地位置図	39
第 54 図 下立願寺遺跡群トレンチ配置図	39
第 55 図 下立願寺遺跡群 5 ~ 7 レンチ平面図	41
第 56 図 下立願寺遺跡群トレンチ断面・土層柱状図	41
第 57 図 下立願寺遺跡群トレンチ断面図 2	42
第 58 図 下立願寺遺跡群出土遺物実測図	42
第 59 図 下立願寺遺跡周辺遺構配置図	43

第 60 図	鳥井原遺跡調査地位置図	44	第 89 図	古川遺跡調査地位置図	57
第 61 図	鳥井原遺跡トレンチ配置図	44	第 90 図	古川遺跡トレンチ配置図	57
第 62 図	鳥井原遺跡トレンチ実測図	45	第 91 図	古川遺跡トレンチ柱状図	58
第 63 図	石橋遺跡調査地位置図	46	第 92 図	古川遺跡出土遺物実測図	58
第 64 図	石橋遺跡トレンチ配置図	46	IV 発掘調査（高岡原遺跡）		
第 65 図	石橋遺跡トレンチ実測図	47	第 93 図	高岡原遺跡の位置と過去の調査範囲	62
第 66 図	石橋遺跡 I・2 トレンチ平面・断面図	47	第 94 図	高岡原遺跡構配図	63
第 67 図	石橋遺跡出土遺物実測図	47	第 95 図	西壁土層断面図	64
第 68 図	玉名平野遺跡群調査地位置図（B 地点）	48	第 96 図	S01 穴式建物 平・断面図	65
第 69 図	玉名平野遺跡群トレンチ配置図（B 地点）	48	第 97 図	S03 土壇平・断面図	65
第 70 図	今見堂遺跡調査地位置図	50	第 98 図	S04・05 平・断面図	66
第 71 図	今見堂遺跡トレンチ配置図	50	第 99 図	S06 平・断面図	67
第 72 図	今見堂遺跡土層柱状図（1T～12T）	51	第 100 図	S08 平・断面図	68
第 73 図	高岡原遺跡（C 地点）調査地位置図	52	第 101 図	S09 平・断面図	68
第 74 図	高岡原遺跡（C 地点）トレンチ配置図	52	第 102 図	S10 平・断面図	69
第 75 図	高岡原遺跡（C 地点）トレンチ柱状図	52	第 103 図	S11 平・断面図	69
第 76 図	浜田西原遺跡調査地位置図	53	第 104 図	S12 平・断面図	70
第 77 図	浜田西原遺跡トレンチ配置図	53	第 105 図	S14 平・断面図	70
第 78 図	浜田西原遺跡トレンチ柱状図	53	第 106 図	S15 平・断面図	71
第 79 図	浜田西原遺跡出土遺物実測図	53	第 107 図	周辺遺構配置図	72
第 80 図	築地館跡（B 地点）調査地位置図	54	第 108 図	高岡原遺跡出土遺物実測図 1	72
第 81 図	築地館跡（B 地点）トレンチ配置図	54	第 109 図	高岡原遺跡出土遺物実測図 2	73
第 82 図	築地館跡（B 地点）トレンチ実測図	54	第 110 図	高岡原遺跡出土遺物実測図 3	74
第 83 図	山田神社門前遺跡群調査地位置図	55	V 保存修復（大塚古墳舟形石棺保存修復）		
第 84 図	山田神社門前遺跡群トレンチ配置図	55	第 111 図	大塚古墳舟形石棺修復元	83
第 85 図	山田神社門前遺跡群トレンチ実測図	55			
第 86 図	京塚遺跡調査地位置図	56			
第 87 図	京塚遺跡トレンチ配置図	56			
第 88 図	京塚遺跡トレンチ実測図	56			

## 写真目次

巻頭写真			
大塚古墳舟形石棺棺身 上面（保存修復後）		写真 4 浄光寺蓮華院跡確認調査状況 1	11
大塚古墳舟形石棺棺身 側面（保存修復後）		写真 5 浄光寺蓮華院跡確認調査状況 2	13
大塚古墳舟形石棺棺身 全体（保存修復後）		写真 6 築地館跡（A 地点）調査状況（南から）	14
I 調査の概要	1	写真 7 光善寺確認調査状況（南西より）	16
写真 1 トレンチ調査状況	2	写真 8 高岡原遺跡（B 地点）の調査状況	17
写真 2 確認調査状況	2	写真 9 年の神道跡確認調査状況（北から）	18
写真 3 発掘報報展展示状況	2	写真 10 玉名平野遺跡群（A 地点）調査状況（南から）	19
II 平成 28 年度の調査	7	写真 11 玉名平野遺跡群（A 地点）の調査状況	20
		写真 12 藤光寺古墳の調査状況 1	24

写真 13	藤光寺古墳の調査状況 2	25	V	保存修復(大塚古墳舟形石棺保存修復)
写真 14	藤光寺古墳の調査状況 3	26	写真 37	大塚古墳後円部の現状(北から) 82
写真 15	藤光寺古墳の調査状況 4	27	写真 38	大塚古墳舟形石棺(保存修復前) 84
写真 16	木船西遺跡調査前状況(西から) 28		写真 39	修復後 84
写真 17	木船西遺跡の調査状況 1	31	写真 40	大塚古墳舟形石棺保存修復状況 1 87
写真 18	木船西遺跡の調査状況 2	32	写真 41	大塚古墳舟形石棺保存修復状況 2 88
写真 19	木船西遺跡の調査状況 3	33	写真 42	大塚古墳舟形石棺保存修復状況 3 88
写真 20	古闕遺跡(A地点)確認調査状況	34	写真 43	大塚古墳舟形石棺保存修復状況 4 89
Ⅲ	平成 29 年度の調査		写真 44	大塚古墳舟形石棺保存修復状況 5 90
写真 21	下立願寺遺跡群調査状況 1	39	写真 45	大塚古墳舟形石棺保存修復状況 6 90
写真 22	下立願寺遺跡群調査状況 2	40	写真 46	大塚古墳舟形石棺保存修復状況 7 91
写真 23	鳥井原遺跡調査地現状(東から) 44		写真 47	大塚古墳舟形石棺保存修復状況 8 91
写真 24	鳥井原遺跡確認調査状況	45	写真 48	大塚古墳舟形石棺保存修復状況 9 92
写真 25	2 レンチの溝状遺構(南東から) 46		写真 49	大塚古墳舟形石棺保存修復状況 10 92
写真 26	玉名平野遺跡群(B地点)調査状況	49	写真 50	大塚古墳舟形石棺保存修復状況 11 93
写真 27	今見堂遺跡の調査状況	51	写真 51	大塚古墳舟形石棺保存修復状況 12 94
写真 28	高岡原遺跡(C地点)調査状況(南から) 52		写真 52	大塚古墳舟形石棺保存修復状況 13 95
写真 29	溝状遺構検出状況(南から) 54		写真 53	大塚古墳舟形石棺保存修復状況 14 95
写真 30	山田神社門前遺跡群の調査状況	55	写真 54	大塚古墳舟形石棺保存修復状況 15 96
写真 31	京塚遺跡の調査状況	56	写真 55	大塚古墳舟形石棺保存修復状況 16 97
写真 32	古川遺跡調査地現状(南から) 57		写真 56	大塚古墳舟形石棺保存修復状況 17 98
写真 33	古川遺跡の調査状況	58	写真 57	大塚古墳舟形石棺保存修復状況 18 98
IV	発掘調査(高岡原遺跡)	61	写真 58	大塚古墳舟形石棺保存修復状況 19 99
写真 34	高岡原遺跡調査状況 1	75	写真 59	大塚古墳舟形石棺保存修復状況 20 99
写真 35	高岡原遺跡調査状況 2	76	写真 60	大塚古墳舟形石棺保存修復状況 2 100
写真 36	高岡原遺跡調査状況 3	77		

## 表 目 次

第 1 表	平成 28・29 年度試掘確認調査一覧	5	第 4 表	H29 年度高岡原遺跡出土遺物観察表(土器類) 2 79
第 2 表	平成 28・29 年度出土遺物観察表	59	第 5 表	H29 年度高岡原遺跡出土遺物観察表(石器類) 80
第 3 表	H29 年度高岡原遺跡出土遺物観察表(土器類) 1	78	第 6 表	H29 年度高岡原遺跡出土遺物観察表(鉄器類) 80

# I 調査の概要

## 1 調査の体制

調査及び報告書の作成は、下記の体制により実施している。職員の所属等は、当時のものである。

### 平成 28 年度

調査主体	玉名市教育委員会
調査責任	教育長 池田誠一
調査総括	教育部長 伊子裕幸 文化課長 竹田宏司 文化財係長 上村健也（5月まで） 文化財係長 田中康雄（6月から）
庶務担当	主査 薩父雅史
調査担当	参事 末永 崇 主査 薩父雅史
発掘作業員	中島明子 松藤ケイ子
整理作業員	坂崎郷子、藤井めい子
整理調査員	江見恵留、古閑敬士、大倉千寿

### 平成 29 年度

調査主体	玉名市教育委員会
調査責任	教育長 池田誠一
調査総括	教育部長 戸嶋孝司 文化課長 竹田宏司 課長補佐兼博物館こころビア係長 兵谷有利 文化財係長 田中康雄
庶務担当	主査 薩父雅史
調査担当	主査 薩父雅史 主任 石松 直 技師 田熊秀幸
発掘作業員	中島明子、岩井光男、柳田道明、塚本廣二、大村孝憲、山口俊幸
整理調査員	江見恵留、古森政次、古閑敬士
整理作業員	尾崎延枝、五野富美子、早川イツエ

### 平成 30 年度（報告書作成）

調査主体	玉名市教育委員会
調査責任	教育長 池田誠一

調査総括	教育部長 戸嶋孝司 文化課長 松田智文 課長補佐兼文化係長兼博物館こころビア係長 兵谷有利 文化財係長 田中康雄
庶務担当	主査 薩父雅史
報告書担当	主査 薩父雅史 主査 菊池直樹
整理調査員	江見恵留
整理作業員	尾崎延枝、五野富美子、坂崎郷子、早川イツエ

## 2 調査の方法

試掘確認調査については、0.13～0.28m<sup>2</sup>のバッケホーを使用して、幅0.7～1m程度のトレーニチを掘削しており、包含層や遺構の一部については人力掘削を行っている。対象面積に対する掘削面積等については特に基準を定めていないが、開発の内容、予想される遺跡の内容、地形等を勘案して適宜設定している。

実測図は、1/20スケールを基本として、平面・断面図を作成し、一部三次元計測を行っている。トレーニチの配置図等については、基本的に開発に伴う測量図及び字図等に記入する形をとっている。

写真は、一眼レフデジタルカメラを用いており、重要な遺構などが確認された場合は、フィルムによる撮影を行っている。

## 3 調査総括

玉名市では、平成 11 年度から、国・県の補助を受け、開発行為等に伴い各種調査を実施している。

平成 28 年度における届出等の件数は、文化財保護法第 93 条による届出 82 件、94 条による通知 13 件であり、その内 11 件で試掘確認調査を実施し、その内 4 件が本調査となった。

平成 29 年度においては、法第 93 条による届出 83 件、94 条による通知 9 件がなされ、うち試掘確認調査 12 件を実施し、その内 2 件が本調査となった。

本調査となった 6 件の内、国庫補助事業で本調査を実施した高岡原遺跡については、本書の第Ⅳ章に掲載し、その他については別途報告書を刊行する

予定である。

全体的に調査件数の8割が、規模の大小を問わず民間事業に起因するものであった。

公共事業に伴う確認調査は4件あり、市道建設に伴うもののが多かった。岱明玉名線建設予定地では埋蔵文化財が確認されたため発掘調査となった。

民間開発関係では、店舗、共同住宅、宅地造成（分譲地）の事業が多くあった。特に玉名市山田に所在する高岡原遺跡の範囲内では、3地点において確認調査を行い、いずれも弥生時代から中世の遺構が検出された。協議の結果、工事により影響が生じる範囲については発掘調査を行うこととなった。

玉名市築地所在の築地館跡でも、共同住宅及び専用住宅建設に伴い確認調査を行い、その結果、いずれも埋蔵文化財が検出された。うち共同住宅については、駐車場部分で大幅な切土造成がなされるため発掘調査を実施した。

玉名市岱明町高道所在の藤光寺古墳（前方後円墳）では、専用住宅工事に伴う確認調査で、後円部の周溝が検出された。明確な遺物は確認できなかったが、古墳の規模を知るうえでも貴重な例となった。

玉名市立願寺所在の下立願寺遺跡では、玉名郡倉推定地の北側において、古代期のものと考えられる東西方向に延びる大型の溝を確認した。この溝は形状や方向から郡倉を囲む溝である可能性がある。

築地所在の淨光寺蓮華院跡では、東西方向に延びる溝状遺構が確認された。中世期と考えられ、過去の発掘調査でも指摘されていた土塁に並行する溝の延長と推定される。

大規模なものとしては、病院建設に伴う玉名平野遺跡群の確認調査がある。44,243m<sup>2</sup>において計43本のトレンチを設定し確認調査したところ、古代から中世にかけての水田跡が検出されたため発掘調査を実施することとなった。

#### 4 活用

玉名市では、開発行為に伴う試掘確認調査等の結果を年度ごとに報告書として刊行しているが、その成果は歴史博物館こころビアにおいて、2年に1回の割合で発掘速報展を実施している。

平成28年度においては、10月1日から11月

27日にかけて「ホントは身近な遺跡たち」と題した展示を行った。

展示内容は、市道や学校建設に伴い調査した遺跡を身近に感じてもらうことに視点を置き、現在の状況写真と共に出土した遺物を展示した。他に高瀬官軍墓地の出土品と併せて、市内における西南戦争関連の遺跡を紹介した。平成28年に発生した熊本地震によって被害を受けた指定文化財の写真パネルなども展示した。この期間中、約1500人の見学者があった。



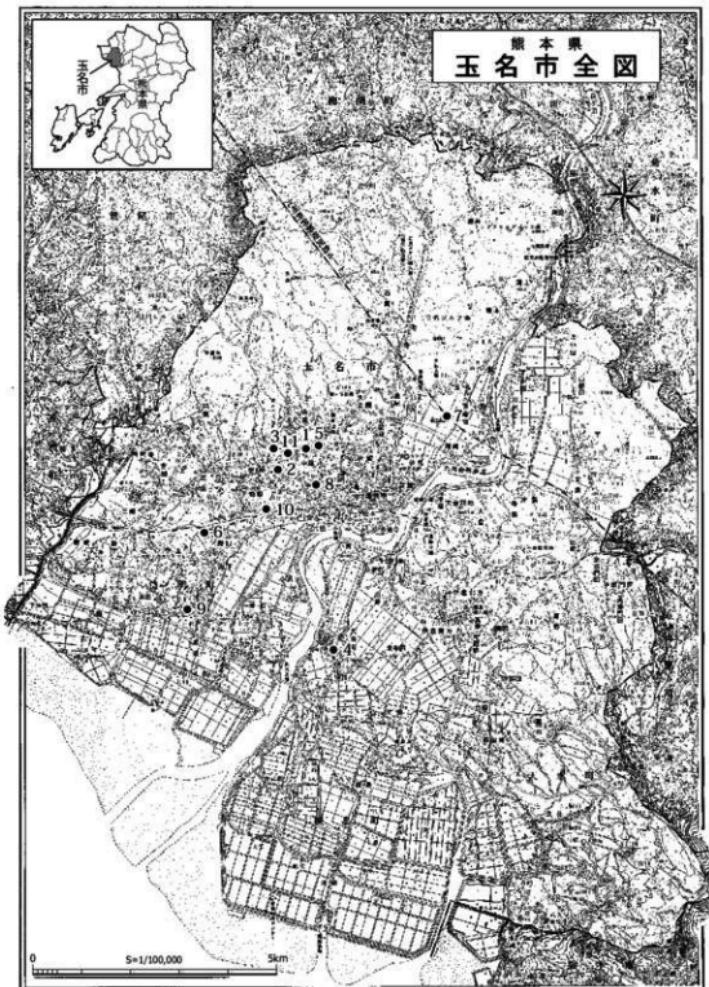
写真1 トレンチ調査状況



写真2 確認調査状況

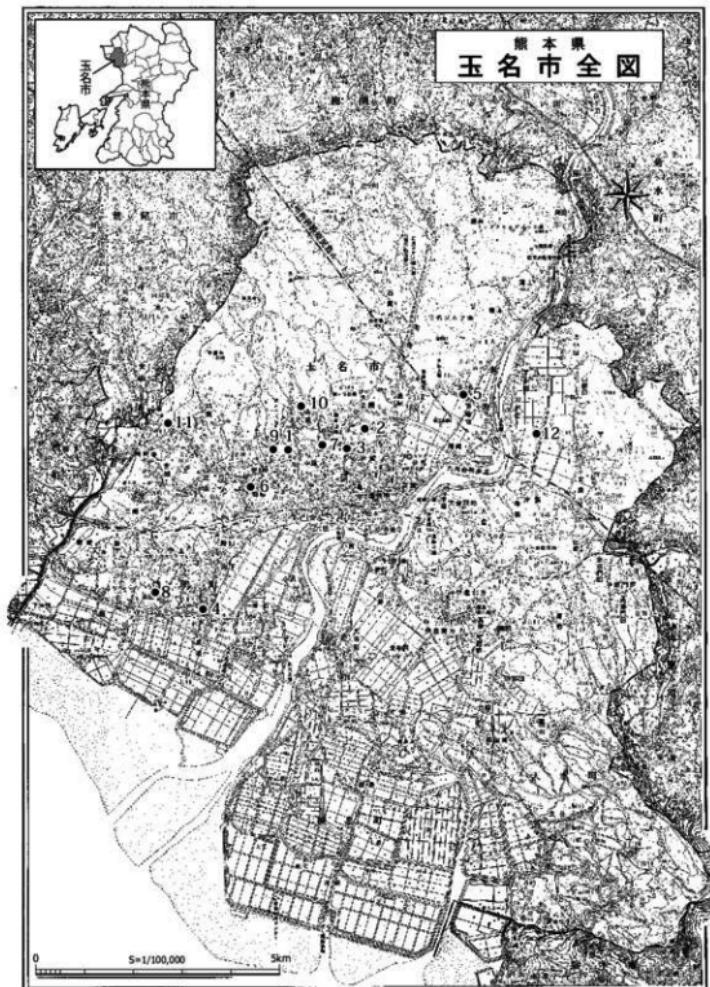


写真3 発掘速報展展示状況



- |              |                |
|--------------|----------------|
| 1 高岡原遺跡（A地点） | 7 玉名平野遺跡群（A地点） |
| 2 净光寺蓮華院跡    | 8 春出遺跡         |
| 3 築地館跡（A地点）  | 9 藤光寺古墳        |
| 4 光善寺        | 10 木船西遺跡       |
| 5 高岡原遺跡（B地点） | 11 古闕遺跡（A地点）   |
| 6 年の神遺跡      |                |

第1図 平成27年度調査位置図



- |                |              |
|----------------|--------------|
| 1 古園遺跡（B地点）    | 7 高岡原遺跡（C地点） |
| 2 下立順寺遺跡群      | 8 浜田西原遺跡     |
| 3 烏井原遺跡        | 9 斎地館遺跡（B地点） |
| 4 石橋遺跡         | 10 山田神社門前遺跡群 |
| 5 玉名平野遺跡群（B地点） | 11 京塙遺跡      |
| 6 今見堂遺跡        | 12 古川遺跡      |

第2回 平成29年度調査位置図

第1表 平成28・29年度試験調査一覧

平成28年度		調査地名		調査面積 (m <sup>2</sup> )		種別		調査原因		調査期日		担当者	
No.	調査名	調査地	調査番号	2055-1-2059-2061-5他7箇	7,689	確認調査	小耕	平成28年5月12日～5月17日	6月21日	新之助史	新之助史	実施会	新之助史
1	高岡原道路	山田町子母原	1816.1	8,311	確認調査	小耕	平成28年5月26日～7月5日	等完地役	7月5日	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史
2	分光寺通駆除地跡	篠山町2288		8,537	確認調査	小耕	平成28年5月26日～7月5日	等完地役	7月5日	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史
3	坂地軒跡 (A地点)	大庭町919.1		1409.8	確認調査	小耕	平成28年5月7日～6月8日	6月24日	6月24日	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史
4	分光寺	大庭町919.1		334.21	確認調査	小耕	平成28年5月15日	6月24日	6月24日	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史
5	高岡原道路	山田町2042.15		8,460	確認調査	小耕	平成28年5月15日	6月24日	6月24日	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史
6	年の神道路	(55)伊野町子母原2938-2		671	確認調査	小耕	平成28年10月7日～11月25日	道役	11月25日	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史
7	玉名平野道路群 (A地点)	玉名市伊野町子母原1451-1他7箇		615.96	確認調査	小耕	平成28年11月16日	6月24日	6月24日	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史
8	杏出道路	中伊野町内1411.1412.3		671	確認調査	小耕	平成28年12月6日～2月7日	7月H	7月H	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史
9	鷹寺寺白堀	(55)伊野町子母原736-2,238-○～鹿		615.96	確認調査	小耕	平成29年2月10日～2月24日	7月H	7月H	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史
10	木本西道路	(55)伊野町子母原1605-1,下前原17-2,18-29-30		671	確認調査	小耕	平成29年3月19日～5月8日	7月H	7月H	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史
11	占南道路 (A地点)	桑山町占南1903-1		1244	確認調査	小耕	平成29年3月19日～5月8日	7月H	7月H	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史

平成29年度		調査地名		調査面積 (m <sup>2</sup> )		種別		調査原因		調査期日		担当者	
No.	調査名	調査地	調査番号	906.1	891	調査依頼	上事用道路	平成29年4月24日	4月24日	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史
1	占南寺道跡群 (B地点)	桑山町占南906.1		1,368	確認調査	小耕	平成29年5月25日～5月29日	H	H	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史
2	下立原寺道跡群	山田町下立原257.1		267	調査依頼	小耕	平成29年6月12日	6月28日	6月28日	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史
3	鳥井寺道跡	(55)伊野町子母原645-1,645-2		1,293	確認調査	小耕	平成29年10月24日～平成30年3月28日	H	H	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史
4	石橋寺道跡	玉名市856番地		44243	調査依頼	小耕	平成29年11月20日～平成30年1月10日	H	H	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史
5	玉名平野道路群 (B地点)	(55)伊野町子母原221～斎地329		4,084	調査依頼	小耕	平成29年12月7日～平成30年1月10日	H	H	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史
6	今尺堂道路	山田町子母原1996.14		238	確認調査	小耕	平成29年12月7日～平成30年1月10日	H	H	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史
7	高岡原道路 (C地点)	山田町子母原177.1		1,004	確認調査	小耕	平成29年12月22日	H	H	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史
8	浜田西側道路	浜田町子母原1812.5		222	確認調査	小耕	平成30年2月9日	H	H	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史
9	浜地軒跡 (B地点)	山田町子母原1064.1～地蔵前1677.1の地先		600	確認調査	小耕	平成30年3月13日	H	H	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史
10	山田神社門前道路群	(55)伊野町子母原816.7		305	確認調査	小耕	平成30年3月26日	H	H	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史
11	空室道路	下子母田829の一部7箇		24,049.85	確認調査	小耕	平成29年10月30日	H	H	新之助史	新之助史	新之助史	新之助史
12	古川通路									石松・田嶋	石松・田嶋	石松・田嶋	石松・田嶋



## II 平成 28 年度の調査

## 1 高岡原遺跡（A 地点）

所在地：山田字高岡 2055-1,2059,2061-5 他 7 筆

調査原因：店舗

対象面積：7,689m<sup>2</sup>

調査期間：平成 28 年 5 月 12 日～5 月 17 日

平成 28 年 6 月 21 日（追加調査）

担当者：齋父雅史

当該地は、小岱山から南に延びる丘陵上に位置する標高 26 m 程の地点で、旧状はブドウ畠である。

平成 5 年度に実施された敷地南東側の市道建設に伴う発掘調査では、弥生時代の集落跡が確認されており、住居跡から破鏡（後漢鏡）や小型仿製鏡などが出土している。

当該地では、調査依頼に基づき、計 44 か所のトレンチを設定して確認調査を行った。

基本土層は、I・II 層が耕作土、III 層が暗褐色土、IV 層が褐色粘性土（無遺物層）であり、III 層は、包含層に相当すると考えられるが、西側の 5 トレンチ近辺と敷地南東側にしか残っておらず、大半がブドウ畠の開墾などに伴い削平や擾乱を受けている状況であった。

大半のトレンチでは、遺構・遺物共に確認されず、西側の 5 トレンチ及び東側の 32・33・35・36・37・40 トレンチで埋蔵文化財を検出した。このうち 36・37 トレンチでは、南北方向に延びる溝と考えられる遺構を検出し混入物などから中世の可能性が高いと判断した。しかし、当該地においては、特に西側は削平の影響により大半の埋蔵文化財が消失しているものと想定され、建設予定地の西及び東側においてわずかながら遺構が残存している状況と考えられる。

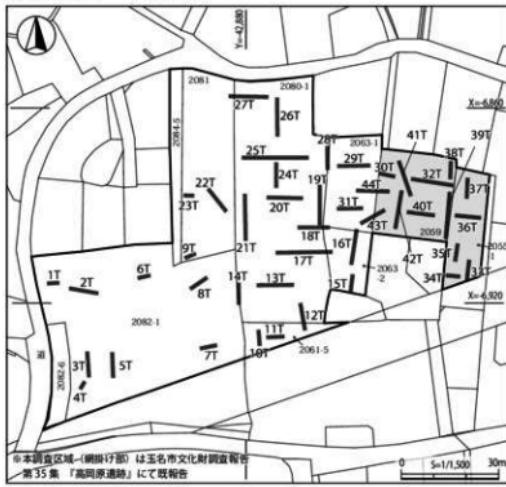
今回の工事は店舗の建設であり、敷地の大半で、現況面から最大約 1.6m の切土、西側で約 40cm の盛土が計画されていた。調査結果から、東側遺構残存部については、埋蔵文

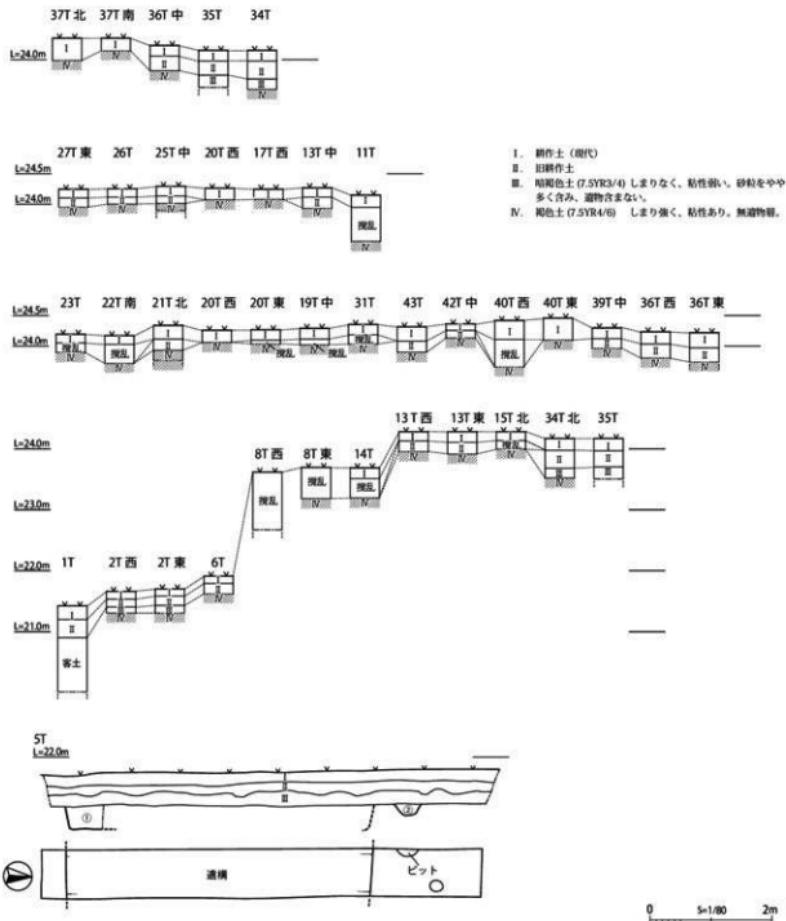


第 3 図 高岡原遺跡（A 地点）調査位置図

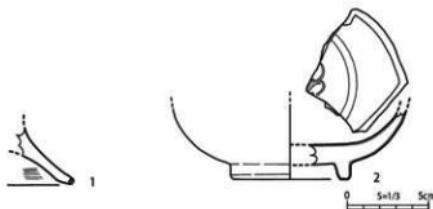
化財に影響を及ぼすと考えられることから発掘調査を実施することとなった。

発掘調査については、既に別途報告書を刊行している。その概要是、南北方向の溝状遺構を中心に東側にかけて掘立柱建物跡が 5 棟、西側でも 1 棟検出された。これらは、出土した青磁等からも 14 世紀～16 世紀代と考えられ、文献にみられる「高岡屋敷」の存在を裏付け、居館の存続時期を示す資料といえる。





第5図 高岡原遺跡（A地点）遺構実測図



第6図 高岡原遺跡（A地点）出土遺物実測図

## 2 浄光寺蓮華院跡

所在地：築地 2288

調査原因：寺院施設

対象面積：8,311m<sup>2</sup>

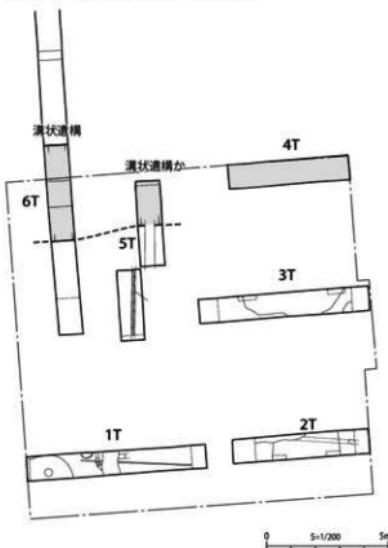
調査期間：平成 28 年 5 月 26 日、7 月 5 日

担当者：齋父雅史

調査地は、境川右岸の台地上に位置する標高 16 m 程の地点で、蓮華院誕生寺の境内である。南側には、市指定有形文化財である「閻白塔」のほか、多数の石造五輪塔が残る。

昭和 61 年度に実施された寺域確認調査では、敷地の北西側で弥生時代後期の住居跡などと共に中世の溝状遺構、柱穴群などが確認されている。柱穴群は 3 間 × 6 間の掘立柱建物跡で、西側の 2 間は土間と推定されることから庫裡、客殿、僧坊などの機能を兼ねた建物跡と考えられている。

当該地には、約 20 年前まで現在の庫裏や本堂へ続く施設が建っていたが、今回、多宝塔の建設が計画されたため確認調査を実施した。



第 9 図 浄光寺蓮華院跡遺構配置図



第 7 図 浄光寺蓮華院跡調査位置図



第 8 図 浄光寺蓮華院跡トレーンチ配置図

調査では、建物予定地に 6 か所のトレーンチを設定して、埋蔵文化財の状況を確認した。基本土層は、I 層が客土、II 層が暗褐色土、III 層が黄褐色粘性土であった。大半のトレーンチ内でコンクリート基礎の一部や空洞ブロック、土管が残存しており、以前の建物解体時を含め、複数回の搅乱や削平を受けていた状況であった。

昭和 61 年の調査時に、東西方向に延びると推定されていた「濠跡」の延長線上に設定した 4 ~ 6 トレーンチでは、その濠跡と思われる溝状遺構を検出した。

6 トレーンチで確認した溝の断面は、逆台形を呈し、



第10図 現在の蓮華院誕生寺正門周辺図

幅約4m、深さ約1.4mで上部は削平を受け、振り返しの形跡があった。遺物は、上層から弥生時代及び中世と考えられる土器細片が少量出土したが、明確な時期は不明である。

確認調査の結果、一部溝状遺構を検出したが全体的に搅乱や削平を受けている状況であり、建物予定地内の遺構は大半が消失しているものと考えられる。

工事の内容は、多宝塔の新築で、基礎振削は最深部で約40cm、鋼管杭が計36本入る計画である。施工予定地内の北端部において、溝状遺構が確認されたが、基礎振削は1層内に收まり影響はないものと判断される。また、溝状遺構の一部は鋼管杭の影

響を受けるが、直径16cmの杭が最大6本入るのみであり、影響はごくわずかであると考えられる。よって、調査後の措置は慎重工事とした。

## &lt;参考文献&gt;

田添夏喜他 1989

『浄光寺跡寺域確認調査』玉名市文化財調査報告第7集 玉名市教育委員会

末永 崇他 2013

『南大門遺跡』玉名市文化財調査報告第28集 玉名市教育委員会



第11図 浄光寺蓮華院跡出土遺物測定図

写真4 浄光寺蓮華院跡確認調査状況1



トレンチ調査現状（西から）



1 トレンチ調査現状（東から）

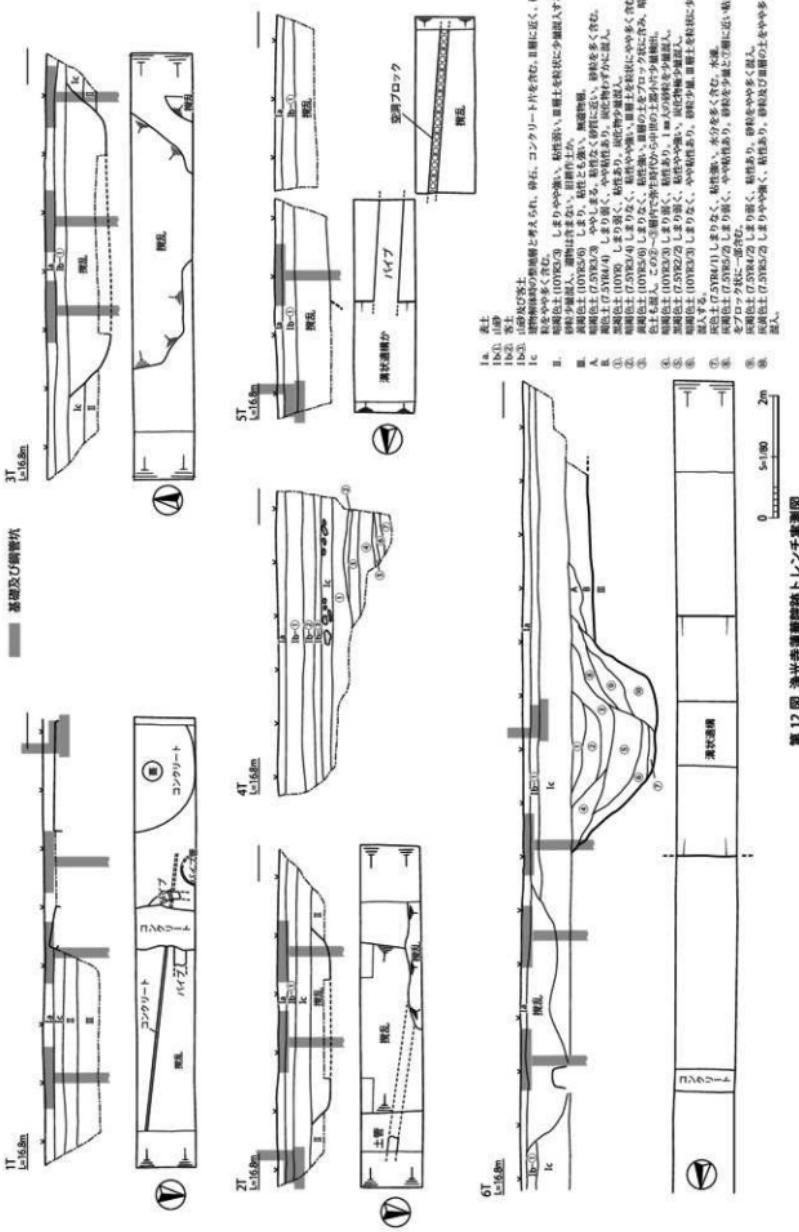


図12 浄光寺道草跡トレンチ実測図

写真5 浄光寺蓮華院跡確認調査状況2



6 トレンチの位置と溝状造構の方向（南西から）



6 トレンチの溝状造構（南から）

### 3 築地館跡（A 地点）

所在地：築地字八反 1816-1

調査原因：共同住宅

対象面積：1,537m<sup>2</sup>

調査期間：平成 28 年 6 月 7・8 日、6 月 24 日

担当者：齋父雅史

調査地は、小岱山から南に延びる丘陵上に位置する標高約 23 m の地点である。北側に隣接する玉名バイパス建設に伴う県文化課による発掘調査では弥生時代の住居跡などが確認されている。

今回、敷地内に計 14か所のトレンチを設定して調査を行った。基本土層は、I 層が表土、II 層が旧耕作土、III 層が暗褐色土、IV 層が褐色粘性土（無遺物層）である。III 層が包含層に相当すると考えられるが、遺物はほとんど含まない。1・2・7・9・12・13・14 トレンチの IV 層上面において遺構を検出した。

内容は、住居跡と考えられる遺構 4 基、土坑やピット 4 基であり、時期は出土遺物及び周辺事例から弥生時代後期が中心と考えられた。

今回の工事は、共同住宅の新築である。駐車場部分で、現況面から最大約 1 m の切土が計画され、建物基礎の掘削深度は、北側の玄関付近が約 50 cm で、遺構検出面に達する部分があった。調査結果から、建物基礎北側部分を含めた駐車場範囲については、埋蔵文化財に影響を及ぼすため、原因者負担において発掘調査を実施することとなった。本調査分の報告書については平成 29 年度に刊行している。

その概要は、弥生時代の遺構としては住居跡 1 基で、その他は中世期の遺構であった。確認調査時に住居跡の可能性があった遺構は、上層の黒褐色土が残存しているのみで遺構とは判断されなかった。

中世の遺構としては、掘立柱建物跡（2 間 × 3 間に庇付き）と土壙であった。土壙からは副葬品は出土しなかったが、人骨が検出され、いわゆる屋敷墓と考えられる。

<参考文献>

古森政次 2018

『築地館跡』玉名市文化財調査報告第 38 集 玉名市教育委員会



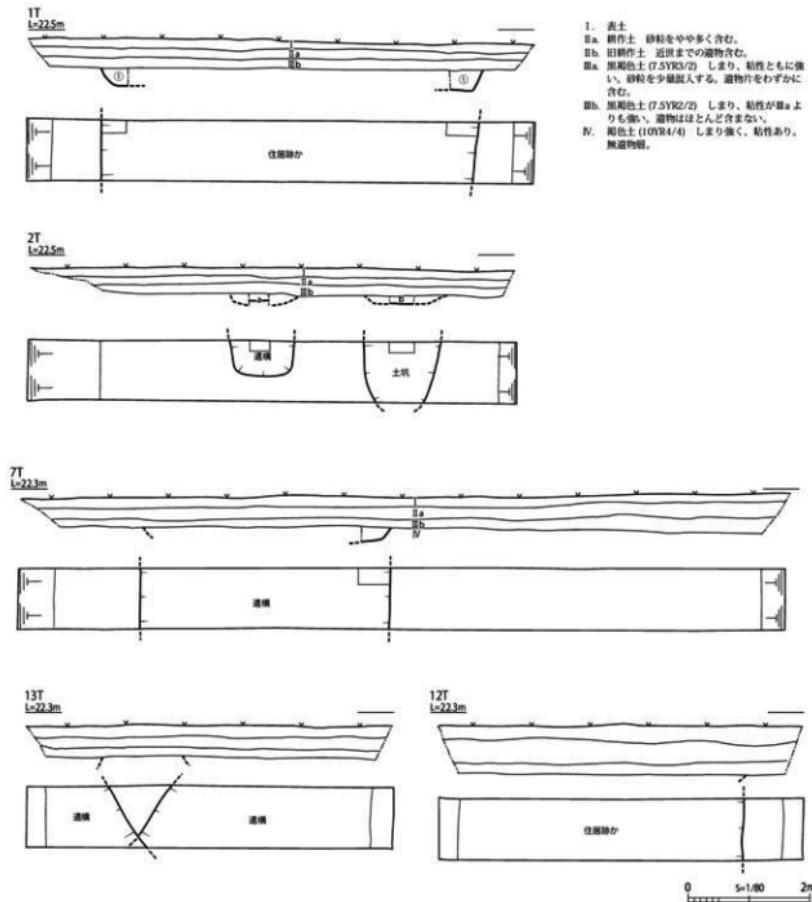
第 13 図 築地館跡（A 地点）調査位置図



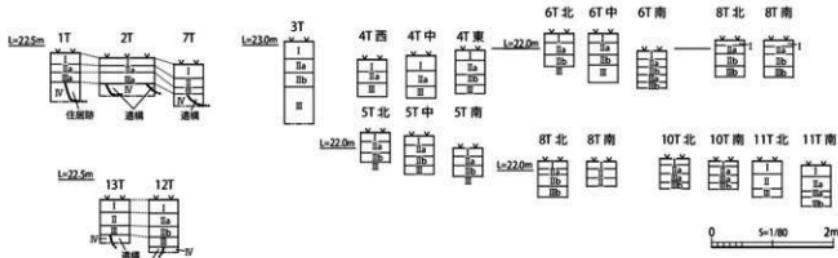
第 14 図 築地館跡（A 地点）トレンチ配置図



写真 6 築地館跡（A 地点）調査状況（南から）



第15図 築地館跡トレンチ実測図



第16図 築地館跡土層柱状図

## 4 光善寺

所在地：大浜町 919-1

調査原因：保育所

対象面積：1409.8m<sup>2</sup>

調査期間：平成 28 年 7 月 15 日

担当者：齋父雅史

当地は、菊池川下流左岸の標高約 3.5 m の自然堤防上に位置し、寺院境内となっている。

光善寺の西隣には外嶋佐吉神社があり、東には戦時に旧陸軍によって大刀洗陸軍飛行学校玉名教育隊の訓練施設（通称：大浜飛行場）が建設され、格納庫跡などが残存している。

淨土真宗大倉山光善寺は、寛永 10(1633) 年に旧八嘉村から移転して当地へ開基したとされ、昭和 25 年から保育園が併設されている。境内には六地蔵が 2 基ある。工事内容は、保育園（管理棟）の増築工事である。

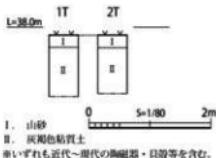
工事予定地は、既存の圍合があったため、解体後に確認調査を行った。2か所のトレンチを設定して、約 1m 下まで土層を観察した結果、約 20cm 下は山砂を含む整地層、その下位は近代～現代の陶磁器・貝殻等を含む灰褐色粘性土層であった。圍合も何度も建替えられており、搅乱を受けている状況である。基礎掘削は、最大深度が約 1m、径 35cm の杭が 6 本入る計画であるが、杭の設置面積も建築面積の 10% 以内である。調査の結果、掘削深度まで埋蔵文化財は確認されなかったため慎重工事となつた。



第 17 図 光善寺調査地位図



第 18 図 光善寺トレンチ配置図



第 19 図 光善寺トレンチ土層柱状図



写真 7 光善寺確認調査状況（南西より）

## 5 高岡原遺跡（B地点）

所在地：山田 2042-15

調査原因：店舗兼共同住宅

対象面積：334.21m<sup>2</sup>

調査期間：平成 28 年 8 月 24 日

担当者：畠井雅史

調査地は、小岱山から南に延びる丘陵上に位置する標高 26 m 程の地点である。現況は畑であり、平成 17 年度に実施された東側隣接地の発掘調査では、弥生時代の住居跡が数基確認されている。

調査依頼に基づき、敷地内に計 3 か所のトレンチを設定して確認調査を行った。土層は、I 層が耕作土、II 層が明褐色粘性土（無遺物層）であり、いずれのトレンチも耕作土の直下（地表面からは約 15 cm 下）から遺構が検出された。遺構は、住居跡や土坑と考えられ、時期は出土遺物から弥生時代後期が中心と考えられる。

工事の内容は、店舗兼共同住宅の建設である。建物の基礎掘削深度が約 42 cm であり、遺構検出面に達する。また、進入路及び駐車場部分も切土が発生し、敷地全体で埋蔵文化財に対する影響を及ぼすため、協議の結果、発掘調査を実施することになった。なお、本調査の成果については第 IV 章に別途掲載している。



第 20 図 高岡原遺跡（B 地点）調査位置図



第 21 図 高岡原遺跡（B 地点）トレンチ配置図

写真 8 高岡原遺跡（B 地点）の調査状況



調査前の状況（南から）



1 トレンチの遺構検出状況（北から）

## 6 年の神遺跡

所在地：岱明町野口字平 2938-2

調査原因：道路

対象面積：350m<sup>2</sup>

調査期間：平成 28 年 9 月 1 日

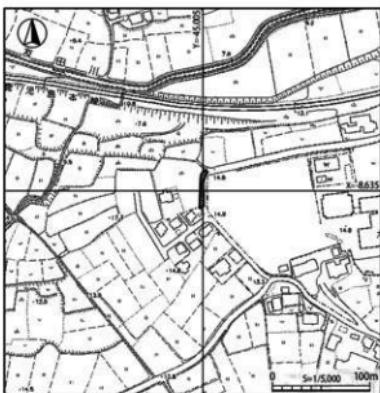
担当者：齋父雅史

調査地は、小岱山から南側に延びる低丘陵上に位置する、標高 16m ほどの地点である。東側に隣接して大野小学校が所在している。

遺跡を含む丘陵一帯は、昭和 40 年代から開田と呼ばれる耕作地造成工事が行われた。その際に弥生時代の支石墓や甕棺墓などが多く発見され、ゴホウラ貝製輪軸 7 点や銅矛片などが出土している。

今回の調査では、道路拡幅部分に 4 か所のトレンチを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。層位は、表土の直下が黄褐色粘性土であり無遺物層と判断した。1 トレンチにおいては擾乱を受けた層（Ⅱ 層）が確認され、いずれのトレンチにおいても遺構、遺物共に確認されなかった。大野小学校の運動場も含め周辺は削平を受けている可能性がある。

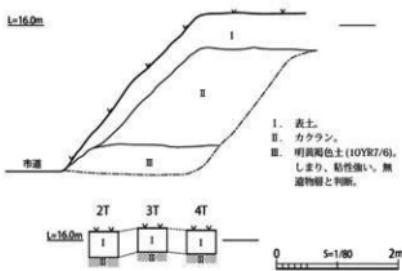
工事の内容は、市道の拡幅工事である。埋蔵文化財は確認されなかったが、甕棺墓などの存在が皆無とはいえないため、掘削の際には工事立会を実施することとなった。その後、工事立会の結果、埋蔵文化財は確認されなかった。



第 22 図 年の神遺跡調査地位置図



第 23 図 年の神遺跡トレンチ配置図



第 24 図 年の神遺跡トレンチ実測図と土層柱状図



写真 9 年の神遺跡確認調査状況（北から）

## 7 玉名平野遺跡群（A 地点）

所在地：玉名字中無田 1451-1 外 7 筆  
 調査原因：駐車場造成  
 対象面積：8,460m<sup>2</sup>  
 調査期間：平成 28 年 10 月 7 日～11 月 25 日  
 担当者：畠井雅史

調査地は、菊池川の右岸に位置し、標高約 6 m の地点にある。新玉名駅西側の駐車場造成計画に伴い調査依頼がなされたため確認調査を実施した。

事業予定地内に計 31 か所のトレンチを設定し調査した結果、基本土層として 1～6 層を確認した。遺物がほとんど出土していないことから、土層の時期特定が困難であるが、1 層が現代の耕作土、2 層が近世以降と考えられる。

いずれのトレンチにおいても畦畔や水路跡は確認されなかった。玉名平野では、これまでの調査例から弥生時代以降水田として土地利用が続いているものと考えられるが、当該地は現在でも特に水捌けが悪く、4 層以下は耕作の痕跡が認められなかった。このようなことから沼地に近い状態ではなかったかと考えられる。遺物は、2 層から中世の土師器皿片が 1 点出土したのみであり、周辺からの流れ込みと考えられる。

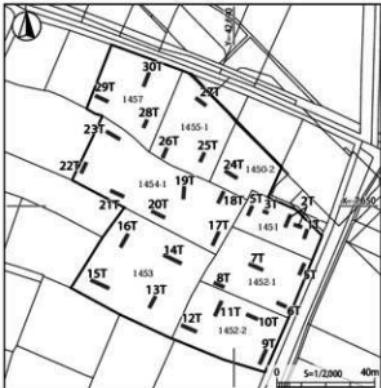
2a 層上面からは、暗渠排水遺構が 1 条検出された。幅約 30cm、深さ約 50cm の溝状で、底部に竹や枝を数本束ねて埋設したもので、約 30 m が残存していた。

このような「東竹敷法」による暗渠排水は、湿田を乾田に変える工法として幕末期から近代初頭に広まったとされている。しかし、当地の場合は広範囲にトレンチを掘削したが、確認できたのは敷地の北東側のみであり、排水の効果が実際にあったのかは疑問がある。

工事の内容は、新玉名駅西側駐車場の造成である。主に現代の耕作土を剥いで、約 1m の盛土が施される計画であり、竹の暗渠部分に対しても工事による影響はない。よって慎重工事となった。



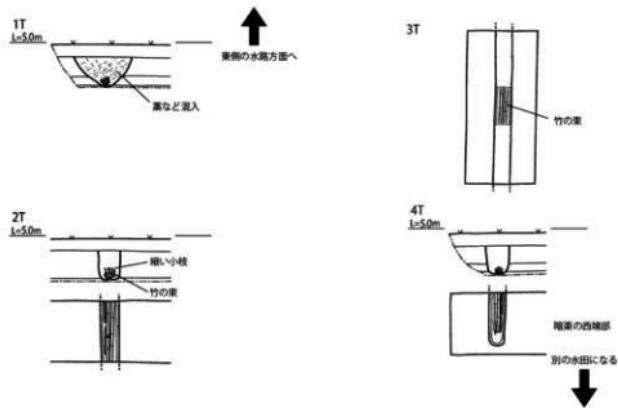
第 25 図 玉名平野遺跡群（A 地点）調査地位置図



第 26 図 玉名平野遺跡群（A 地点）トレンチ配置図



写真 10 玉名平野遺跡群（A 地点）調査状況（南から）



第 28 図 玉名平野遺跡群（A 地点）トレンチ実測図

写真 11 玉名平野遺跡群（A 地点）の調査状況



1 トレンチの束竹敷法暗渠排水道構（東から）



1 トレンチの束竹敷法暗渠排水道構（北から）

## 8 春出遺跡

所在地：中字陣内 1411,1412-3

調査原因：共同住宅

対象面積：671m<sup>2</sup>

調査期間：平成 28 年 11 月 16 日

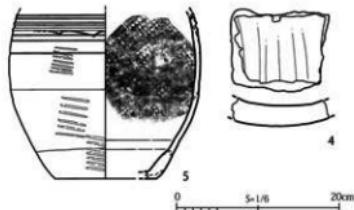
担当者：畠田雅史

調査地は、境川左岸の標高約 14 m の地点に位置する。以前から宅地となっていたが、建物は解体され畠として利用されていた。

当該地及び周辺は、中世居館（中村館跡）と推定されており、一部土塁などが残存している。敷地の南側にも土塁跡が東西方向へ延びており、平成 14 年度の確認調査では、堀跡から中世の遺物が出土している。

建物予定地を中心にして 6 本のトレンチを設定して確認調査を実施した。1 トレンチは堀跡を想定して設定したが、重機による搅乱を受けており、底面まで現代の廃棄物（ガラス等）が混入している状況であった。搅乱を受けているため、落ち込みの上端などは明確にできなかった。その他 2 ~ 6 トレンチも地表面から約 20 ~ 30cm 下で明褐色粘性土層（無遺物層）が検出され、遺構は確認されなかった。予定地全体が搅乱、削平を受けている状況と考えられる。遺物は、搅乱内から中世の瓦が 1 点出土した。平成 14 年度の調査でも中世瓦が出土している。

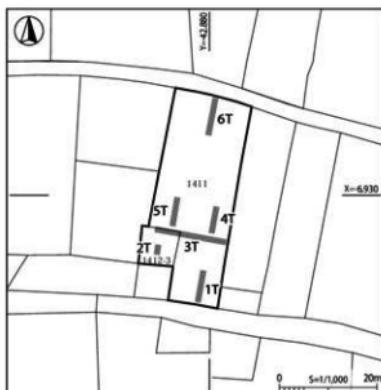
工事の内容は、共同住宅の新築工事である。設計 GL から約 57cm 下までの地盤改良が計画されている。基礎の掘削深度は約 23cm である。調査の結果、敷地内は削平を受けており、遺構は残存していないものと考えられることから慎重工事となった。



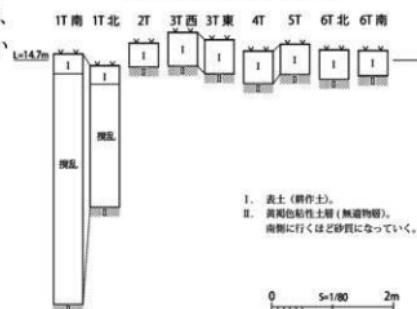
第 31 図 春出遺跡出土遺物実測図



第 29 図 春出遺跡調査地位置図



第 30 図 春出遺跡トレンチ配置図



第 32 図 春出遺跡トレンチ柱状図

## 9 篠光寺古墳

所在地：岱明町高道大馬場 736-2, 738 の一部

調査原因：専用住宅

対象面積：615.06m<sup>2</sup>

調査期間：平成 29 年 2 月 6・7 日

担当者：齋藤雅史

調査地は、行末川と境川に挟まれた低位段丘上の標高約 8m の地点に位置している。当古墳は、前方後円墳と考えられているが、現在前方部墳丘上には天満宮が所在し、後円部北側は宅地化され大幅に削平されている。調査地は、後円部の北東側であり、以前の建物が解体され更地となっている状況であつた。

今回、敷地内に 3 本のトレーナーを設定して確認調査を行った。基本土層は、I 層が表土、II 層が整地層、III 層が無遺物層であった。いずれのトレーナー

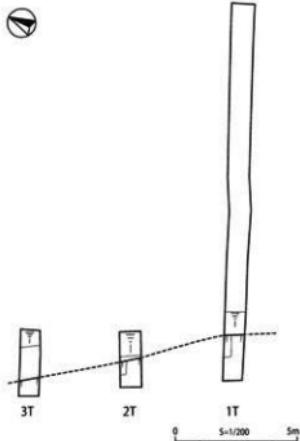


第 33 図 篠光寺古墳調査地位置図

においても、敷地の西側において溝状遺構を検出した。溝は、西側の墳丘に向けて落ち込んでおり、南北方向へつながることから、古墳に伴う周溝と考え



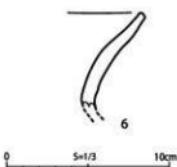
第 34 図 篠光寺古墳トレーナー配置図



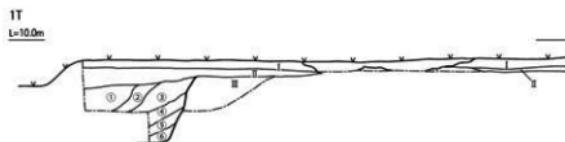
第35図 雄光寺古墳造構配置図

られる。位置は、後円部北東側の周溝にあたるものと想定される。遺物は、周溝の上層から土師器小片を3点検出したのみである。その他、遺構は確認されず、各トレンチの土層堆積状況から、何らかの理由により一度削平され、その後盛土がなされたと想定される。

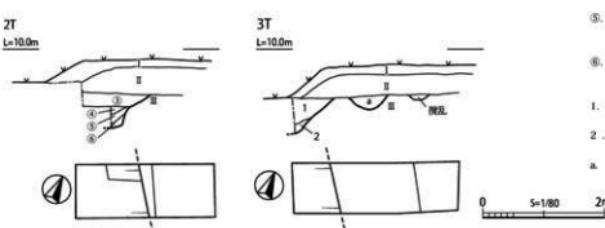
今回の工事内容は、専用住宅の新築工事である。基礎の掘削は、最深部で42cmである。調査の結果から、基礎部分に埋蔵文化財が残存している可能性は低いものと考えられる。ただし、先方の希望により、基礎掘削部にトレンチを設定していないため、掘削に際しては工事立会となつた。その後、工事立会の結果、埋蔵文化財は確認できなかつた。



第37図 雄光寺古墳出土物実測図



- I. 表土(解体後整地層)
- II. 旧敷地層(現代)。宅地造成時、小礫多く含む。
- III. 無遺物層。明闊色砂質土。しまり弱く、粘性なし。



第36図 雄光寺古墳トレンチ実測図

- ①. 黒褐色土(7.5YR5/4)。しまり弱く、粘性なし。炭化物微量、土鉱物中に少量混入する。
  - ②. 黑褐色土(7.5YR3/4)。しまりややあり、粘性なし。表面に近い砂粒(1~2mm)を少量混入する。
  - ③. 黑褐色土(7.5YR3/3)。しまり弱く、粘性なし。白色砂粒(1~2mm)を少量混入する。
  - ④. 黑褐色土(7.5YR3/4)。③よりもしまる。粘性弱い。砂粒(1~2mm)を微量混入する。
  - ⑤. 黑褐色土(7.5YR4/3)。④よりもしまる。粘性弱い。白基土を部分的に含む。砂粒少量含む。
  - ⑥. 黑褐色土(7.5YR4/4)。しまりなく、粘性なし。白基土を全体的に含む。砂質。
1. 黄褐色土(2.5YR4/4)。しまり弱く、粘性なし。白基土を少量含む。
  2. 基底層土(2.5YR3/3)。しまりなく、粘性なし。砂質。全体的に白基土を含む。
  - a. 明闊色土(2.5YR4/3)。やしりも強い。わざかに粘性あり。砂粒少量混入する。

写真 12 藤光寺古墳の調査状況 1



藤光寺古墳全景（南西から）



調査地進入路（左側が墳丘・南から）



進入路沿いの後円部残存状況（東から）



墳頂から調査地を望む（南から）



調査前状況（既存住宅解体後・南から）

写真 13 藤光寺古墳の調査状況 2



1 トレンチ掘削状況（南西から）



1 トレンチ検出の周溝（南から）



1 トレンチ 周溝の土層堆積状況（南東から）

写真 14 藤光寺古墳の調査状況 3



2 トレンチ検出の周溝東端部（南東から）



3 トレンチ検出の周溝東端部（南東から）



墳丘と 1 トレンチ周溝（東から）

写真 15 藤光寺古墳の調査状況 4



各トレンチの周溝位置 (南東から) (人物方向へ続く)



2・3トレンチの周溝位置 (北から)



3トレンチの周溝と外周の痕跡 (東から)

## 10 木船西遺跡

所在地：岱明町野口 605-1, 下前原 17-2, 18, 29, 30

調査原因：道路（市道岱明玉名線）

対象面積：671.00m<sup>2</sup>

調査期間：平成 29 年 2 月 10 日～2 月 24 日

担当者：蟹父雅史

調査地は、境川右岸の低丘陵上に位置しており、標高 13 m 前後の地点にあたる。南側は塚原遺跡、北側は大原遺跡とほぼ接しており、一带は弥生時代中期から古墳時代前期にかけての大規模集落が広がっていたと想定される。

当遺跡は、市道岱明玉名線建設に伴い、平成 24 年度から発掘調査を実施している。当該地北側の調査区では、弥生時代中期前半（城ノ越式期）の円形竪穴建物跡 2 基、後期の竪穴建物跡約 50 基が多数切り合った状態で検出され、他に土坑・ピットも多数確認されている。また、遺物としては多量の土器と共に後漢鏡（破鏡）や不明青銅製品、鉄斧などの鉄製品、投弾、ガラス玉、碧玉製管玉などが出土している。

調査地は工場の敷地内であったが、同じ岱明玉名線の延長線上にあるため、用地購入が済んだ範囲の計 7か所にトレレンチを設定し確認調査を実施した。

その結果、建物の基礎や石垣、コンクリート側溝などが入り込み搅乱が著しかったが、1～3 トレレンチ、5 トレレンチにおいて弥生時代中期から後期と考えられる遺構が数基確認された。遺物の検出量は少量であったが、調査が完了している北側隣接地と集落のつながりがあったものと考えられる。しかし、南側にかけては明確な遺構は確認できなかった。

調査後の処置は発掘調査となった。

### <参考文献>

中村安宏 2018

『木船西遺跡』玉名市文化財調査報告書第 34 集 玉名市教育委員会



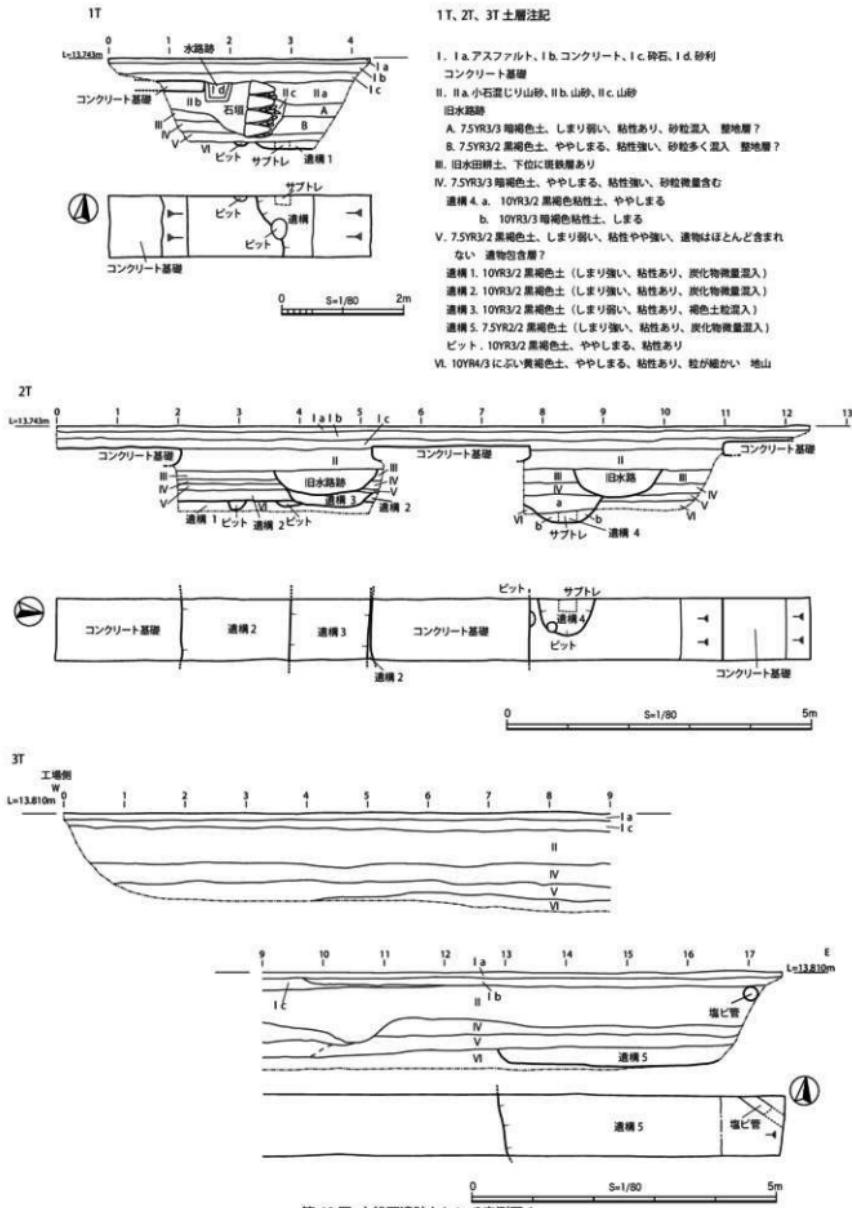
第 38 図 木船西遺跡調査地位置図



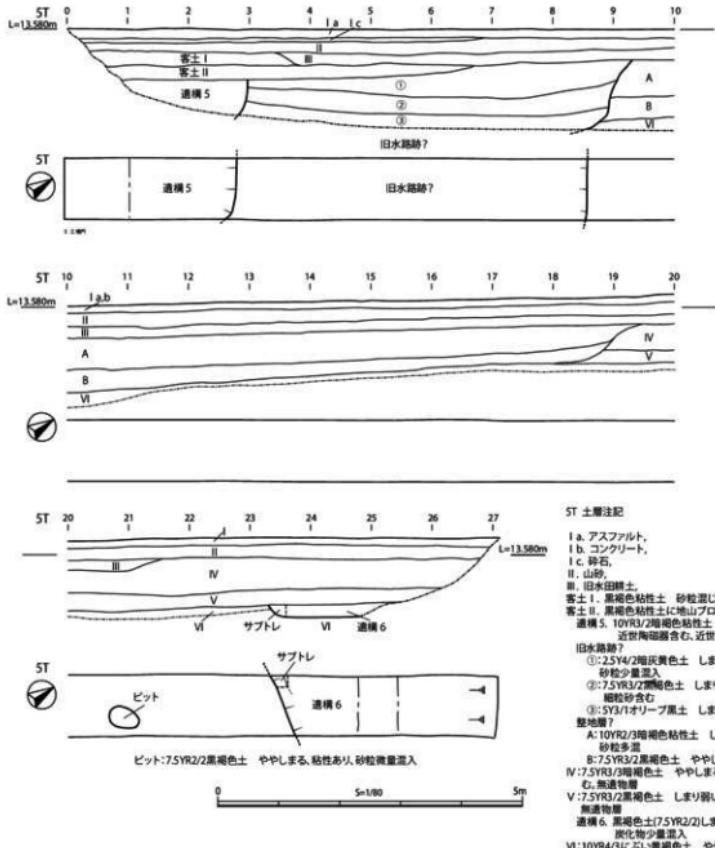
第 39 図 木船西遺跡トレレンチ配置図



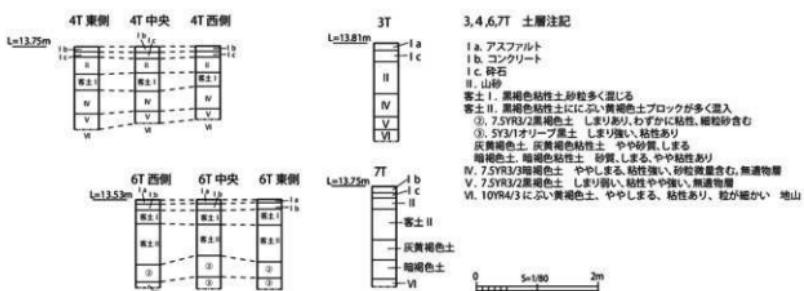
写真 16 木船西遺跡調査前状況（西から）



第40図 木船西遺跡トレンチ実測図1



第41図 木船西遺跡トレンチ実測図2



第42図 木船西遺跡トレンチ柱状図

写真 17 木船西遺跡の調査状況 1



木船西遺跡 確認調査前状況（北から）



アスファルト除去状況（北から）



アスファルト下のコンクリート基盤（北から）



コンクリート掘削状況（西から）



1 トレンチ 石垣・側溝・コンクリート基礎状況（南から）



1 トレンチ 造構検出状況（南から）

写真 18 木船西遺跡の調査状況 2



2 トレンチ 土層堆積状況（東から）



2 トレンチ 遺構検出状況（東から）



3 トレンチ 東側掘削状況（西から）



3 トレンチ 遺構検出状況（南から）



3 トレンチ 西側掘削状況（東から）



3 トレンチ 西側土層状況（北から）

写真 19 木船西遺跡の調査状況 3



4 レンチ 挖削状況（東から）



5 レンチ 遺構検出状況（北から）



5 レンチ 土層堆積状況（東から）



6 レンチ 挖削状況（東から）



7 レンチ 挖削状況（西から）



7 レンチ 土層堆積状況（南東から）

## 11 古開遺跡（A 地点）

所在地：築地字古開 1903-1

調査原因：共同住宅

対象面積：1244m<sup>2</sup>

調査期間：平成 29 年 3 月 9 日

平成 29 年 5 月 8 日（追加調査）

担当者：齋父雅史

調査地は、境川右岸の低丘陵上に位置する、標高 16 m 程の地点である。平成 18 年度に北側隣接地で確認調査を実施しており、弥生時代中期と考えられる竪穴遺構が確認され、内部から赤色顔料が施された器台や土製勾玉などが出土している。

敷地内に計 17か所のトレンチを設定して確認調査を行った。層位は、I 層（約 50 ~ 60cm）が近世以降から現代にかけての耕作土、II 層（約 20cm）が黒褐色粘性土、III 層が褐色粘性土層である。

遺構が確認されたのは主に建物部分（1 ~ 8 トレンチ）であり、III 層上面にて住居跡とみられる遺構 5 基及び多数の土坑、ピットを検出した。時期は、出土した遺物から弥生時代中期～後期と考えられる。

工事の内容は、共同住宅の新築工事である。掘削が生じるのは、建物基礎部分、南東側の擁壁部分、進入路部分であるが、掘削範囲は I 層の耕作土内に収まる。擁壁部分は掘削深度が約 1.3 m と深いが、トレンチ内の遺構密度は低く掘削幅は約 1m と狭小であるため工事立会となった。

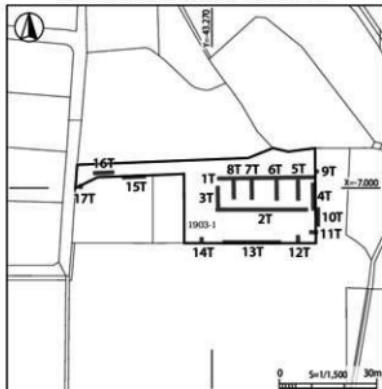
写真 20 古開遺跡（A 地点）確認調査状況



トレンチ掘削状況（東から）



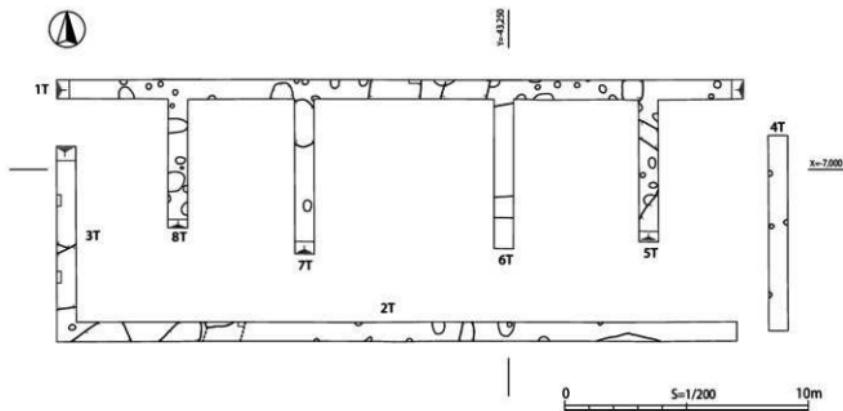
第 43 図 古開遺跡（A 地点）調査位置図



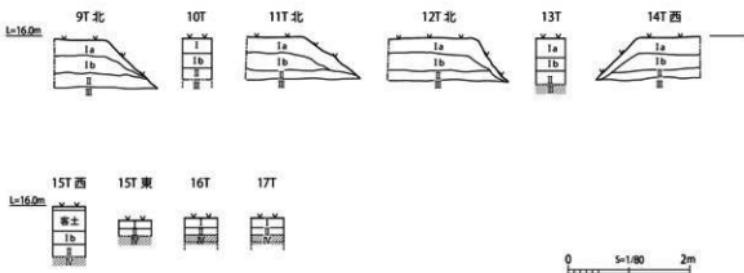
第 44 図 古開遺跡（A 地点）トレンチ配置図



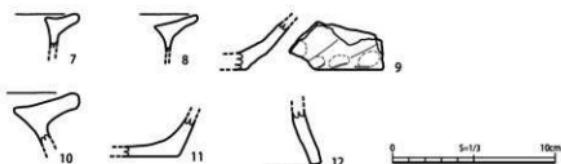
2 トレンチ調査状況（西から）



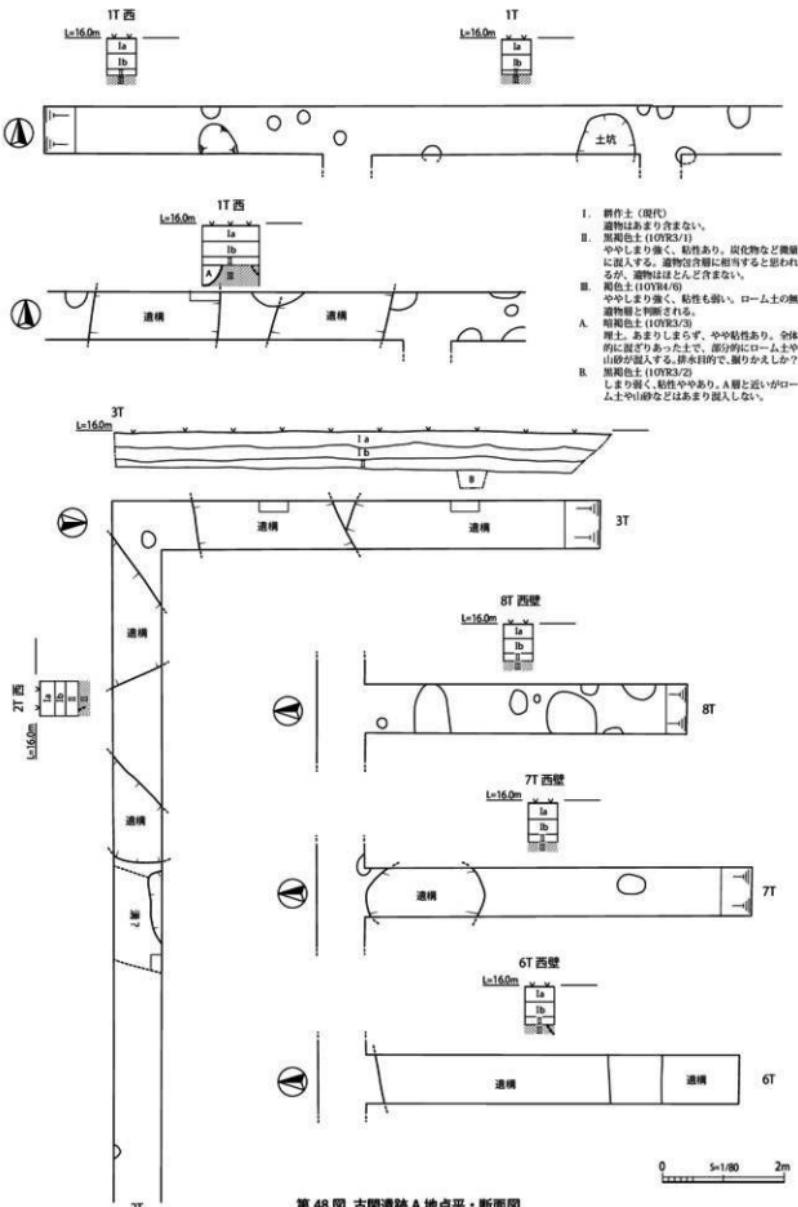
第45図 古闕遺跡A地点遺構配置図(1~8T)



第46図 古闕遺跡A地点 9T~17T 土層柱状図



第47図 古闕遺跡A地点出土遺物実測図



第48図 古閑遺跡A地点平・断面図

### III 平成 29 年度の調査

## 1 古闕遺跡（B 地点）

所在地：築地字古闕 906-1

調査原因：工事用道路

対象面積：891m<sup>2</sup>

調査期間：平成 29 年 4 月 24 日

担当者：蟹父雅史、石松 直、田熊秀幸

調査地は、境川右岸の低丘陵上に位置する、標高 16 m 程の地点である。調査地は、丘陵北端部の傾斜地であり、北側の谷部分は包蔵地外となっている。

平成 18 年度に実施した南東側における個人住宅建設に伴う確認調査では、弥生時代中期の竪穴造構が検出され、赤色顔料が施された器台や甕、特殊器台、土製勾玉など祭祀的な要素が強い遺物が出土している。平成 28 年度の調査区（A 地点）でも住居跡と考えられる遺構や土坑が確認されており、築山小学校周辺一帯に遺跡が広がっていたものと想定される。

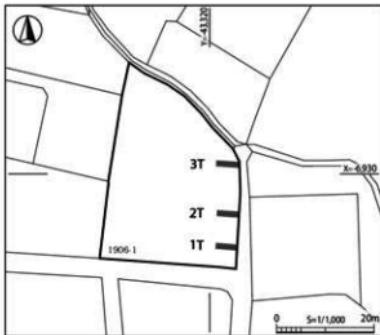
工事予定地内に計 3 か所のトレンチを設定して確認調査を行った。層位は、I・II 層が耕作土・客土、III 層が暗褐色土、IV 層が褐色土（無遺物層）であった。III 層は弥生時代の土器片を少量含む。

3 トレンチの IV 層上面において、弥生時代と考えられるビット等の遺構を検出した。

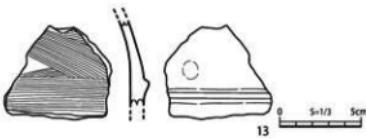
工事の内容は、既存里道が狭いため工事用道路として拡張するものであり、恒常に使用する道路ではない。現況の里道から西側へ 3.5 m 拡幅される予定であるが、掘削は現在の里道面まであり山砂で整地する程度である。掘削深度は I～II 層内に収まるため、埋蔵文化財に対する影響はないものと考えられることから慎重工事となった。



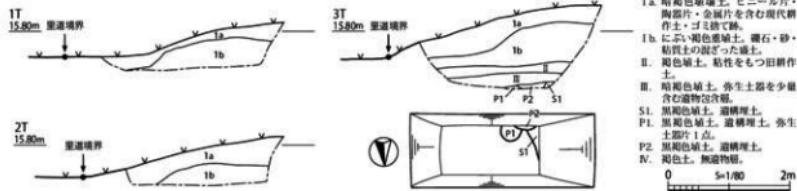
第 49 図 古闕遺跡（B 地点）調査地位置図



第 50 図 古闕遺跡（B 地点）トレンチ配置図



第 51 図 古闕遺跡（B 地点）出土遺物実測図



第 52 図 古闕遺跡（B 地点）トレンチ実測図

## 2 下立願寺遺跡群

所在地：立願寺

調査原因：福祉施設

対象面積：1,368m<sup>2</sup>

調査期間：平成29年5月25日～5月29日

担当者：石松直、田熊秀幸

当該地は、正野神社北側の丘陵上に位置する標高約26mの地点である。南側隣接地は玉名郡倉跡推定地となっている。

今回、敷地内に7本のトレーナーを設定して調査した結果、北側の1～3トレーナーでは表土（約30cm）直下で無遺物層が検出され、埋蔵文化財は確認されなかった。南側の4～6トレーナーでは、地表下約50cmで暗褐色土層（近世～近代の遺物含む）が確認され、5～7トレーナーにおいては、地表下80～110cmの深度で、溝状遺構を検出した。

この5トレーナーの溝状遺構（SD-1）については、幅約5m、深さ約2mを測る。（第53図）

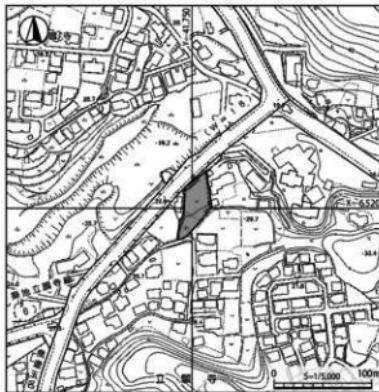
断面としては逆台形の形状を呈している。この溝は大きく二つの時期に分けて掘り返されていることが埋土の状態から判明している。最終的に溝はほぼ水平に埋没しており、ある時期から周辺は放棄された状態であったことを示している。旧地形は全体的に南側に向かって高く、北側は低くなっているものと考えられる。

埋土の状態から、特に南側にかけて径1cm程度のブロック土が混入した堆積がみられることから、南

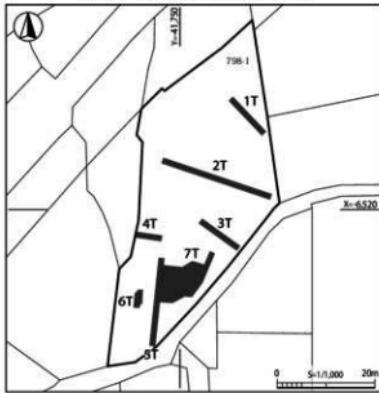
写真21 下立願寺遺跡群調査状況1



下立願寺遺跡群調査状況（南から）



第53図 下立願寺遺跡群調査位置図



第54図 下立願寺遺跡群トレーナー配置図



5トレーナー調査状況（南から）

側には土塁や築地といった遺構が存在していた可能性も考えられる。

このSD-1の埋土には、遺物はほとんど含まれないが、古代と考えられる土師器及び須恵器の細片が見られるものの古代以降の遺物は全く混入しない。SD-1が、どの方向へ向くのか不明確であったため5トレンチを一部拡張して面的な掘削を行ったところ、ほぼ東西方向へ伸びることを確認した（第55図）。

5トレンチの南側においては、約1mの楕円形を呈した石材（安山岩平石）を確認している。地面に対して平行に安置していないことや包含層がほとんど認められないため、この石材が礎石かどうかは断定できないが、南側の史跡指定地の礎石と類似しており、礎石である可能性は十分考えられる。

さらに7トレンチは、溝状遺構の幅を確定するために設定したトレンチであり、ここで溝状遺構の北限を確認した。その結果、SD-1は東西方向に延び、西側で地形に沿ってL字状に屈曲するものとみられ、玉名郡倉跡との関連性が考えられる。

今回の調査で、史跡指定地よりも北側に郡倉に関わる可能性のある溝状遺構が確認されたことにより、郡倉跡の範囲について新たな知見が得られた。今回の調査結果と過去の調査で確認されている建物跡等の遺構の配置について整理したところ以下のことが考えられる。

① 構成している建物は礎石建物、掘立柱建物である。礎石建物の礎石は楕円形の安山岩平石を使用している。掘立柱建物の柱穴は掘方が方形もしくは隅丸方形をなしており、規格的には5間×4間や4間×4間である。どちらの建物も総柱建物である。

② 現在確認されている郡倉跡遺構の範囲を区画する可能性のある幅5m程度の溝状遺構が北側で東西方向、西側で南北方向に延びる。

③ 純石建物が北側の東西溝（SD-1）の南側にあり、その南側に西側の南北溝と同じ向きで3棟の掘立柱建物跡が並ぶ。これらの建物跡は北から南に一列に並ぶとみられる。

④ 狹い調査範囲ではあるが、出土遺物がほとんどみられず、生活空間とは考えにくい。

まとめると、大きな区画溝により区画された空間

に総柱建物からなる整然と配列した建物群があり、かつ生活空間では無いとみられることから正倉といった倉庫群からなる空間であったとみられる（第59図）。

工事の内容は、福祉施設の建設である。建物予定期地においては、南端で溝状遺構が検出されたが、現地表面から約15cm盛土が施されるため埋蔵文化財に対する影響は無いものと考えられる。

ただし、進入路予定期地の南側においては最大深度約1mの切土が計画されており、側溝部分のみが溝状遺構の検出面に及ぶ可能性があるため工事立会となった。

その後に実施した進入路部分の掘削に伴う工事立会で、西側の崖法面において、5・7トレンチで検出していった溝状遺構の延長部分を確認した。5トレンチの断面と同様の堆積状況であった。なお、最下層から古代と考えられる遺物が検出された。溝の時期を示す資料といえるが、図化できるものは無かった。

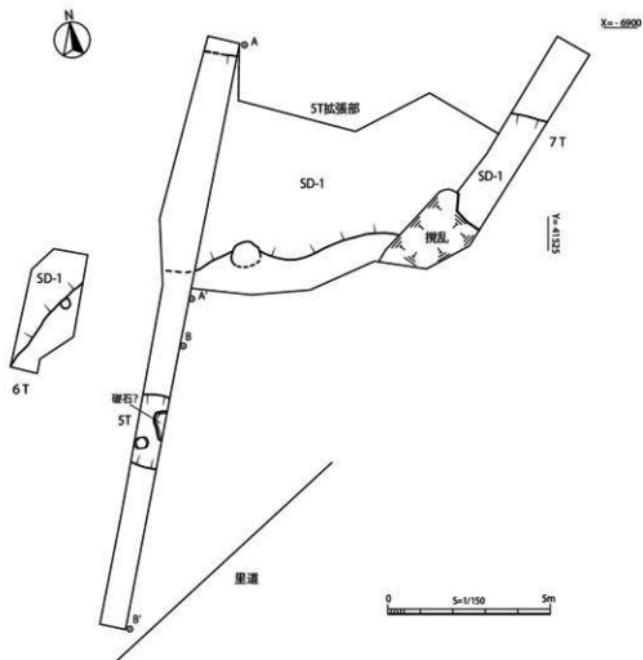
写真22 下立顛寺遺跡群調査状況2



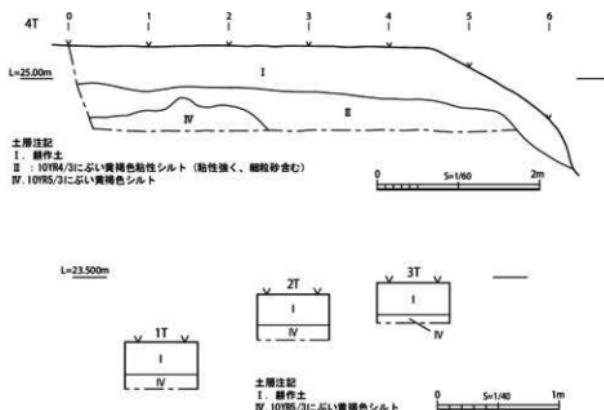
5トレンチで検出した石材（北から）



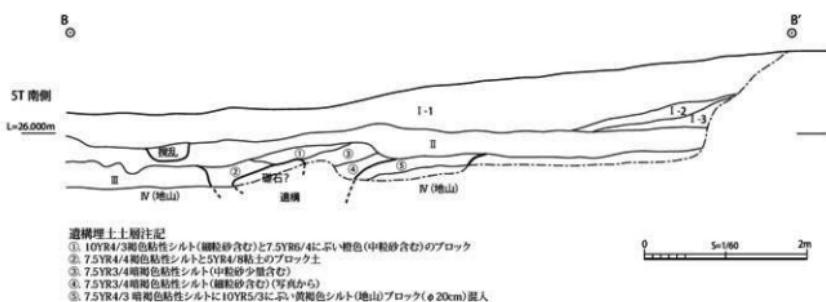
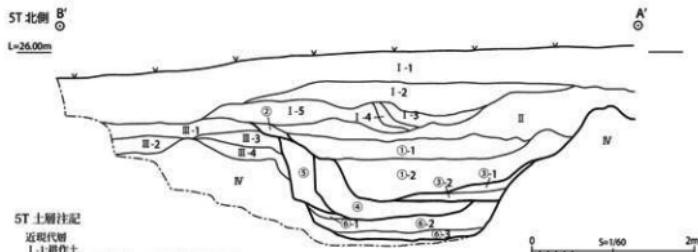
5トレンチ拡張区の溝検出状況（西から）



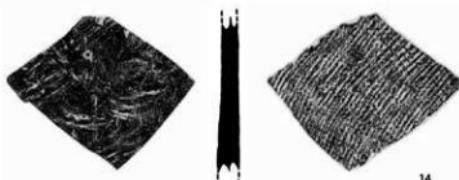
第55図 下立願寺遺跡群5~7トレンチ平面図



第56図 下立願寺遺跡群トレンチ断面・土層柱状図

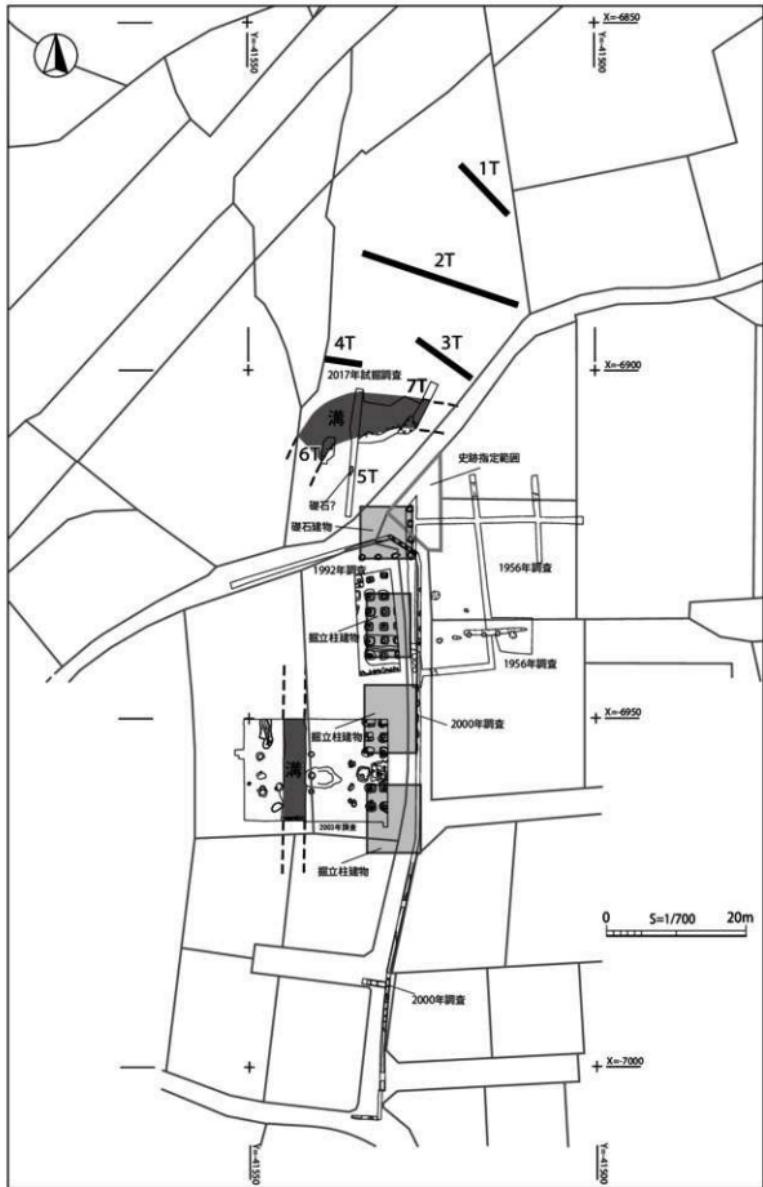


第 57 図 下立願寺遺跡群 レンチ断面図 2



14

第 58 図 下立願寺遺跡群出土遺物実測図



第59図 下立願寺遺跡周辺遺構配置図

### 3 烏井原遺跡

所在地：立願寺字烏井原 257-1

調査原因：宅地造成（調査依頼）

対象面積：267m<sup>2</sup>

調査期間：平成 29 年 8 月 28 日

担当者：董父雅史、石松 直、田熊秀幸

調査地は、小岱山から南側に広がる低丘陵上に位置する、標高約 27 m の地点である。東側にかけては谷となり、現在は溜池がある。敷地北側に接する東西方向に延びる市道は、古代から中世まで遡る可能性がある道路跡と考えられている。調査地の現況は畑となっており、周辺は既に宅地化された部分が多い。

当該地は、平成 26 年度に地権者から宅地造成の相談があり、調査依頼に伴って一度確認調査を実施している。前回は、埋蔵文化財の有無を確認するため、敷地全体に 6 本のトレーナーを設定して調査を行ったが、その結果、弥生時代の住居跡が数基検出され、集落跡が残存していることが確認された（詳細は『玉名市内遺跡調査報告書X』2018 参照）。

当時の計画は、敷地全体を市道の高さまで切土して宅地化するもので、造成にあたっては協議が必要という判断に至り、その後計画は保留状態となっていた。

平成 29 年度になって、別途分譲地計画が持ち上がった。内容は、5 棟分の分譲地にして、駐車場の部分しか切土しないという計画であった。よって、前回の調査でトレーナーを設定していない部分と新たな駐車場及び擁壁施工予定地を照合し、計 6か所のトレーナーを設定し改めて確認調査を実施した。

その結果、現在の地表下約 15 ~ 30 cm で弥生土器などを含む層が確認され、一部 1・2・4 トレーナーでは、その下に弥生時代の住居跡と考えられる遺構が 3 か所、そのほか柱穴や溝とみられる遺構などが検出され埋蔵文化財がさらに存在していることが確認された。その後、協議を行い計画は保留となっている。

#### <参考文献>

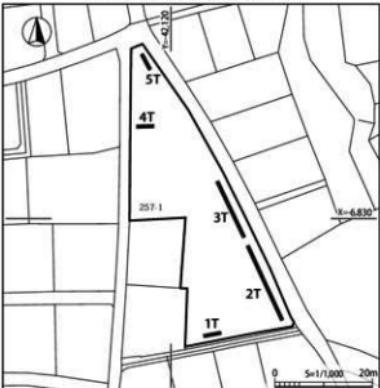
董父雅史編 2018

『玉名市内遺跡調査報告書X』玉名市文化財調査報告

第 37 集 玉名市教育委員会



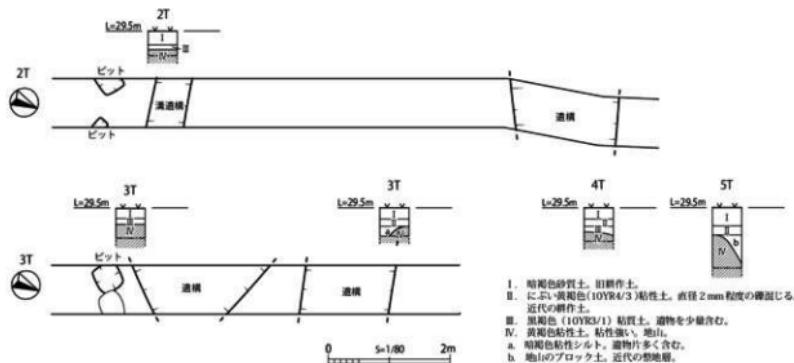
第 60 図 烏井原遺跡調査地位置図



第 61 図 烏井原遺跡トレーナー配置図



写真 23 烏井原遺跡調査地現状（東から）



第62図 島井原遺跡トレーンチ実測図

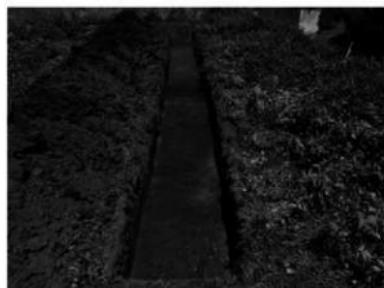
写真24 島井原遺跡確認調査状況



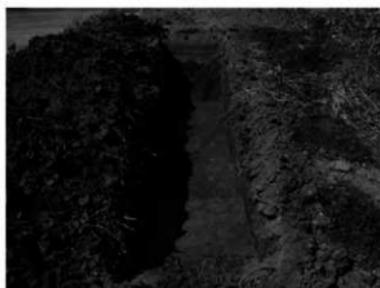
1 トレーンチ全景（南から）



1 トレーンチ遺構検出状況（南から）



2 トレーンチ遺構検出状況（南から）



5 トレーンチ調査状況（南から）

#### 4 石橋遺跡

所在地：岱明町高道字石橋 645-1,645-2

調査原因：太陽光発電

対象面積：1,293m<sup>2</sup>

調査期間：平成 29 年 9 月 12 日

担当者：石松 直・田熊秀幸

調査地は、境川右岸の低位段丘南端部に位置する、標高約 8m の地点である。当遺跡は、弥生時代の包蔵地となっており、以前に野部田式土器が出土している。また、西側には藤光寺古墳（前方後円墳）、北側には弁財天古墳（現在は円墳とされる）が所在している。

当該地は、以前は畠として利用されており、現地確認を行ったところ遺物の散布が多くみられ、工事予定地で造成を受ける可能性があったため、敷地内に 3 か所のトレレンチを設定して確認調査を行った。

その結果、いずれのトレレンチでも地表下 20 ~ 30 cm 程度が表土、40 ~ 50 cm までが近世・近代の旧耕作土であった。その下層が褐色粘性土の無遺物層であり、上面で遺構を検出した。

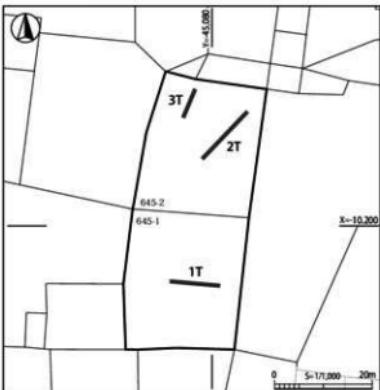
南側の 1 トレレンチでは、地表下 50 cm で南北方向の小溝と植栽痕を認めた。いずれも近現代の擾乱と考えられる。北側の 2・3 トレレンチでは、地表下 40 cm で東西方向の溝（幅 2.5 m・深 1 m 以上）1 条を認めた。2 トレレンチ南側では、版築による整地面と、柱痕とみられるピットを 3 基確認した。検出遺物などから、これらの溝と版築痕は中世以降のものと考えられる。

調査地の北側に、やや高くなり竹藪となっている地形が存在することから古墳の可能性も考えられるが、今回のトレレンチでは周溝などは確認されなかつた。

工事の内容は、太陽光発電システムの設置である。進入路、付帯工事を含め全体的に掘削は行わらず、太陽光パネルの支柱が 72 本設置される程度であるが、その直径は 7.6 cm と狭小である。よって、慎重工事となった。



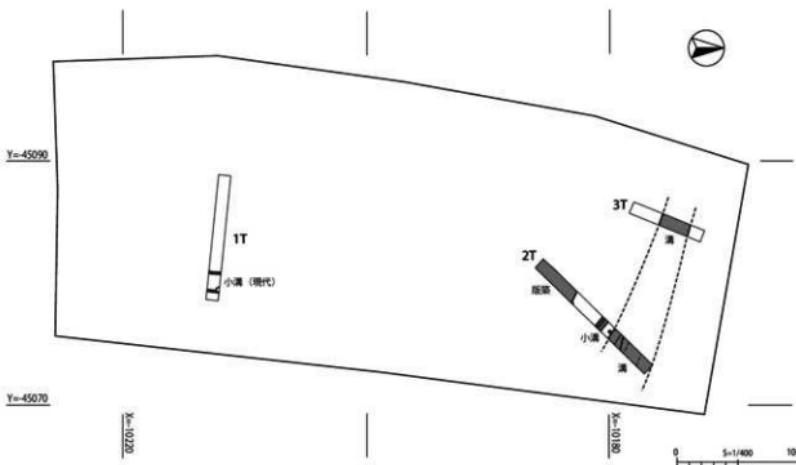
第 63 図 石橋遺跡調査地位置図



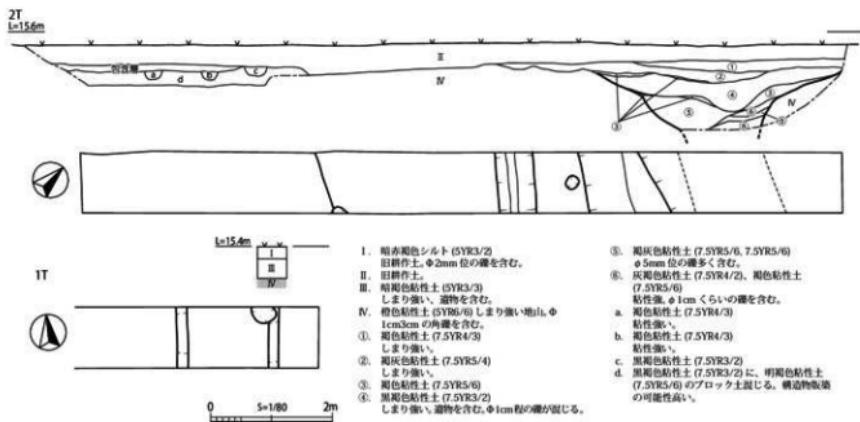
第 64 図 石橋遺跡トレレンチ配置図



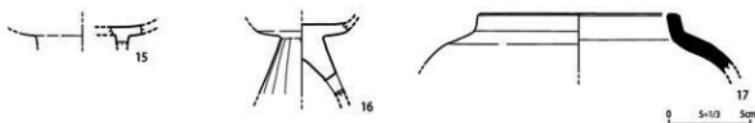
写真 25 2 トレレンチの溝状遺構（南東から）



第65図 石橋遺跡トレンチ実測図



第66図 石橋遺跡1・2トレンチ平面・断面図



第67図 石橋遺跡出土遺物実測図

## 5 玉名平野遺跡群（B 地点）

所在地：玉名 856 番地他

調査原因：病院建設

対象面積：44,243m<sup>2</sup>

調査期間：平成 29 年 10 月 24 日～平成 30 年 3 月 28 日

担当者：石松 直 田熊秀幸

調査地は、菊池川右岸の平野部に位置する、標高約 6m の地点である。現況は水田及び旧学校施設である。

県道玉名立花線の道路改良工事に伴う県文化課の発掘調査では、弥生時代後期以降の水田跡と、一部において古墳時代中期と考えられる木樁が検出され



第 68 図 玉名平野遺跡群（B 地点）調査地位置図



第 69 図 玉名平野遺跡群（B 地点）トレンチ配置図

ている。畦畔については敷粗染技法も確認されている。

調査地南側の九州新幹線駅周辺整備に伴う両迫間日渡遺跡の発掘調査では、弥生時代中期の水田に伴う杭列遺構、弥生時代後期の水田面では足跡が多数検出され、古墳時代中期の滑石製模造品を中心とした祭祀遺構も一部で確認されている。

当該地は病院建設の計画があったため、調査依頼に基づき敷地内において合計43か所のトレンチを設定して、確認調査を実施した。

その結果、1, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 21, 22, 23, 33, 34, 35トレンチにおいて、現在の水田面から約60～80cmの深度で、中世の

耕作面とみられる畦畔・水田・溝跡が検出された（第1遺構面）。また、トレンチ7, 11, 21, 22及び23の一部においては、第1遺構面下約20～40cmの深度で黒褐色粘性土層が認められ、ここからも畦畔・稻株跡・足跡などが検出された。出土遺物から古代の所産と考えられる（第2遺構面）。

なお、トレンチ21, 22, 23の北半部、TP1～12及びトレンチ24からは遺構面が認められず、耕作に適さない沼地であったと考えられる。

工事の内容は、病院施設の新築工事である。確認調査の結果から、埋蔵文化財への影響が生じる範囲については、発掘調査を実施することとなった。

写真26 玉名平野遺跡群（B地点）調査状況



対象地西側の調査前状況（西から）



対象地東側の旧玉名小学校敷地（南から）



12トレンチ調査状況（西から）



21トレンチ調査状況（南から）

## 6 今見堂遺跡

所在地：岱明町下前原 221,221-1,315-1 外 2 筆

調査原因：消防本部・庁舎

対象面積：4,084m<sup>2</sup>

調査期間：平成 29 年 11 月 20・21 日

担当者：齋父雅史

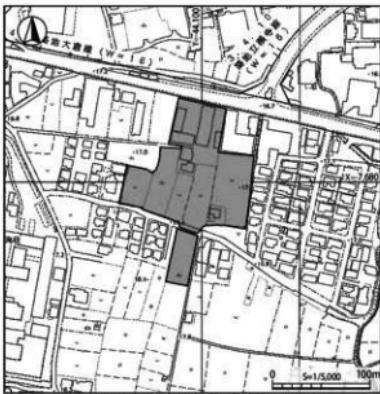
調査地は、境川右岸の丘陵上に位置する標高約 17 m の地点にある。東側から南側にかけては、南大門遺跡、大原遺跡、下前原遺跡、木船西遺跡、塙原遺跡、年の神遺跡といった弥生時代の集落跡に囲まれている。また、中世になると周辺には淨光寺や正覚寺、淨幸寺といった寺院が造営され、南側には大野氏の居館とされる築地次郎国秀館や前原宗因の墓などが所在している。

当遺跡では、昭和 29 年の造成工事中に五輪塔が検出され、人骨と共に青磁皿、土師皿、中国宋錢 16 枚などが発見されている。その地点は、当該地の北側にある。

平成 9 年度に実施した築地立順寺線建設工事に伴う発掘調査では、弥生時代後期の土器（甕・高壺・鉢など）を含む土坑 5 基が確認されている。このようなことから付近には弥生時代の集落跡が分布している可能性もある。

当調査地の南西側 5 筆は埋蔵文化財包蔵地には含まれていなかったが、遺跡の広がりを把握するため、計 12か所のトレンチを設定して埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、いずれのトレンチにおいても遺構・遺物は確認されなかった。

西側の旧地形は浅い谷であったと考えられ、字図などからも一部は溜池として利用されていたようで、落込みが確認された。この溜池状の落込みも幾度か重機で掘削した痕跡が認められた。その後、買収が完了した土地の調査を継続して行う予定である。



第 70 図 今見堂遺跡調査地位置図

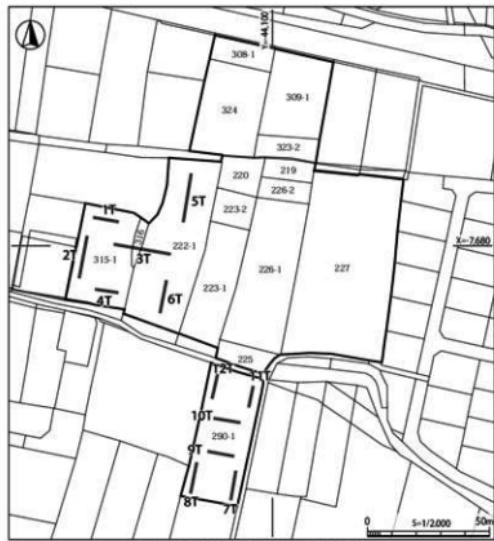
### <参考文献>

田添夏喜 1989

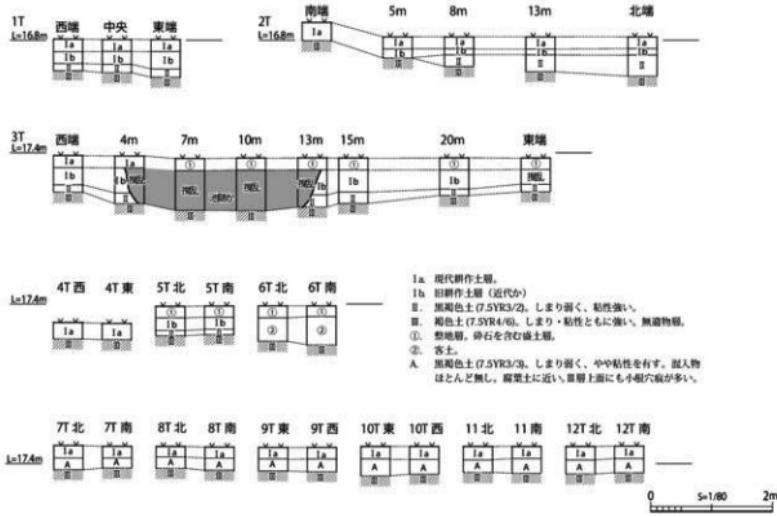
「今見堂遺跡」「淨光寺跡寺域確認調査」玉名市文化財調査報告第 7 集 玉名市教育委員会

末永 崇 2002

「今見堂遺跡・平町遺跡・蓮華遺跡」玉名市文化財調査報告第 10 集 玉名市教育委員会



第 71 図 今見堂遺跡トレンチ配置図



第72図 今見堂遺跡土層柱状図(1T～12T)

写真27 今見堂遺跡の調査状況



2 ドレンチ全景（南から）



3 ドレンチ全景（西から）



7 ドレンチ全景（南から）



12 ドレンチ全景（北から）

## 7 高岡原遺跡（C 地点）

所在地：山田字高岡原 1996-14

調査原因：宅地造成

対象面積：287m<sup>2</sup>

調査期間：平成 29 年 12 月 7 日～平成 30 年 1 月 10 日

担当者：齋父雅史・田熊秀幸

調査地は、小岱山から南に延びる丘陵上に位置する、標高 26 m 程の地点である。以前は、ブドウ畠として利用されていたようである。

調査地の南は、平成 4 年の築立廟寺線建設に伴い発掘調査が行われており、弥生時代後期の住居跡が多數確認され、後漢鏡の破鏡や小型仿製鏡が出土している。また、近年調査例が増加しており、古墳時代の住居跡や古代の柱穴群。西側では中世の居館に伴う溝状遺構や掘建柱建物跡が数基検出され、大野氏の「高岡原屋敷」と関連する遺構も確認されている。

分譲地造成に伴い、進入路部分で切土が発生するため、進入路予定地を中心に南北方向に 4 本のトレチを設定して確認調査を実施した。

基本土層は、I 層が表土及び旧耕作土、II 層が暗褐色粘性土、III 層が褐色粘性土（無遺物層）であり、地表面の約 60 ～ 70cm 下（III 層上面）から遺構が検出された。

遺構は、住居跡や溝、柱穴と考えられ、時期は、出土遺物から弥生時代後期を中心と考えられる。溝は、幅 1.3 m、深さ約 50 ～ 60cm で断面の形状は逆台形を呈しており、周辺の事例から古代～中世の可能性がある。

今回の工事は、分譲地に伴う進入路の造成である。南側の市道面からの高低差が約 2.5 m もあり、スロープ状に切土が発生するため、遺構面まで掘削が及ぶ範囲（287m<sup>2</sup>）は発掘調査を実施することとなった。

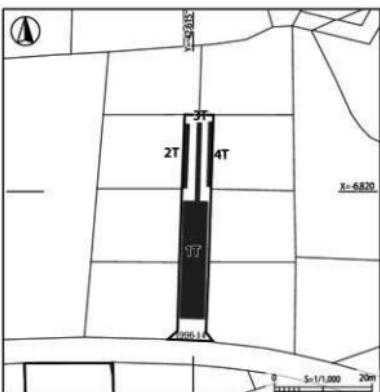
なお、本調査の報告については、平成 30 年度に別途報告書を作成する予定である。



第 75 図 高岡原遺跡（C 地点）トレチ柱状図



第 73 図 高岡原遺跡（C 地点）遺跡調査地位位置図



第 74 図 高岡原遺跡（C 地点）トレチ配置図



写真 28 高岡原遺跡（C 地点）調査状況（南から）

## 8 浜田西原遺跡

所在地：岱明町浜田 177 番 1

調査原因：宅地造成

対象面積：1,004m<sup>2</sup>

調査期間：平成 29 年 12 月 22 日

担当者：田熊秀幸

調査地は、友田川左岸の低丘陵南端に位置する、標高約 15m の地点である。以前はミカン園として利用されており、1970 年代の航空写真でもそれが確認できる。

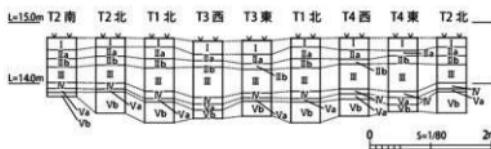
当遺跡は、土師器・須恵器片などが散布していることから古墳時代の包蔵地として周知されているが、これまで調査例がないため、遺跡の性格など不明な点が多い。

南側は浜田貝塚と接しているが、近辺には浜田吹上古墳、浜田西原古墳参考地、藤光寺古墳、弁財天古墳など古墳が多く所在している。浜田吹上古墳は、昭和 51 年の調査時に石材が確認されているが、詳細は不明である。

届出地内において、建売住宅建設に伴う造成工事が実施されるため、4か所のトレンチを設定して確認調査を行った。

基本層序は、地表下約 20cm までが現代の耕作土（I 層）、約 50cm までが近代の耕作土（II 層）、約 70 ~ 90cm までが、小砾・須恵器・染付片等の遺物が混在する層（III 層）、約 80 ~ 100cm までが、弥生時代の遺物包含層（IV 層）、以下が褐色の無遺物層（V 層）であった。V 層上面が構造検出面相当と考えられるが、明確な構造は検出されなかった。

工事内容は、宅地造成及び建売住宅 3 棟の新築工事である。現地表から 30cm 盛土造成された上面が設計 GL となり、基礎最大掘削深度は設計 GL から 39cm である。掘削は造成層及び I 層中に収まり、埋蔵文化財に対する影響は発生しないため慎重工事となった。



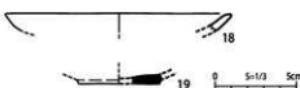
第 78 図 浜田西原遺跡トレンチ柱状図



第 76 図 浜田西原遺跡調査位置図



第 77 図 浜田西原遺跡トレンチ配置図



第 79 図 浜田西原遺跡出土遺物実測図

- I. 規耕土層。
- II.a. 勒赤褐色粘性土 (SYR3/4)。近現代植物含む (旧耕作土部)
- II.b. 勒赤褐色粘性土 (SYR3/4)。中軽砂・角礫少量含む (旧耕作土部)
- III. 勒赤褐色粘性土 (SYR3/3)。細砂質・角礫含む・染付片・洞窟層・土師器群在 (近世以前の整地層)
- IV. 黒褐色粘性土 (SYR2/1)。発生土層片含む (発生後期堆積) に於い赤褐色粘性土 (SYR4/3)。過溝株山面相当層 (遺構なし)
- V. b. に於い赤褐色粘性土 (SYR4/4)。無遺物層。耕作土
- b. 刻成色土。
- b. 刻成色粘性土。無遺物。

## 9 築地館跡（B 地点）

所在地：築地字八反 1812 番 5

調査原因：専用住宅

対象面積：222.48m<sup>2</sup>

調査期間：平成 30 年 2 月 9 日

担当者：董父雅史

調査地は、小岱山から南に延びる丘陵上に位置する標高約 23 m の地点である。

調査地の北側は、平成 21 年度に玉名バイパス建設に伴い県文化課によって発掘調査が実施され、弥生時代後期を中心とした集落跡が存在していることがわかった。

平成 28 年度に市で実施した北側の共同住宅工事における発掘調査では、弥生時代後期と考えられる住居跡 2 基、中世の掘立柱建物跡 1 基、土壙墓 1 基などが確認されている。一帯は、大野氏の居館跡と推定されており、建物跡と土壙墓はこの居館に関連するものと考えられる。

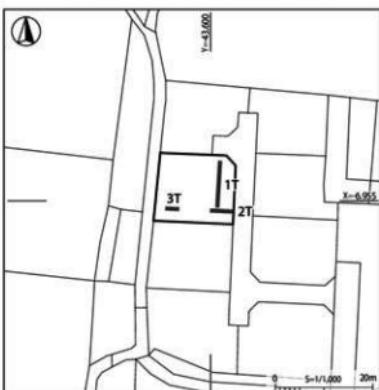
当該地では、専用住宅の建設に伴い、駐車場部分で切土が予定されていたため、その範囲を中心に計 3か所のトレンチを設定して確認調査を行った。

基本土層は、I 層が表土、II 層が耕作土、III 層が褐色粘性土（無遺物層）であった。1・2 トレンチにおいては、III 層上面から落込みのラインが南北方向に確認された。落込みの上層（a 層）は、近世から近代の陶磁器片少量と、砂粒を多量に含む。この落込みは、周辺の地形や地籍図等からも館跡に伴う堀もしくは道路状遺構の可能性があるが、性格は不明である。

工事の内容は専用住宅の新築である。埋蔵文化財



第 80 図 築地館跡（B 地点）調査地位置図

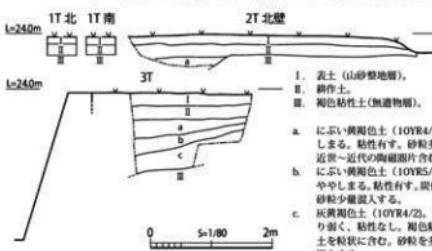


第 81 図 築地館跡（B 地点）トレンチ配置図

に対する影響はないものと判断されたため慎重工事となった。



写真 29 潜状遺構検出状況（南から）



第 82 図 築地館跡（B 地点）トレンチ実測図

## 10 山田神社門前遺跡群

所在地：山田字山口 1064-1～地蔵前 1677-1 の地先

調査原因：道路

対象面積：600m<sup>2</sup>

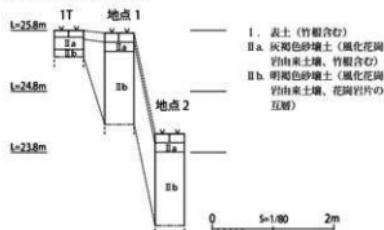
調査期間：平成 30 年 2 月 13 日

担当者：田熊秀幸

調査地は、小岱山麓から南に延びる丘陵上に位置する、標高約 26 m の地点であり、現況は里道となっている。

工事によって切土が生じる範囲にトレーニチを設定し、確認調査を行った。なお、急斜面のため重機掘削が不可能な部分については、崖の断面で層序の確認を行った。

調査の結果、基本層序は地表下約 30 cm までが竹の根を含む表土（I 層）、以下が風化花崗岩由来の真砂土層（II 層・無遺物層）であった。以前畠地として利用された際に、無遺物層まで削平を受けたものとみられる。工事内容は、市道の拡幅工事であり、埋蔵文化財は残存していないと考えられたため慎重工事となった。



第 85 図 山田神社門前遺跡群トレーニチ実測図

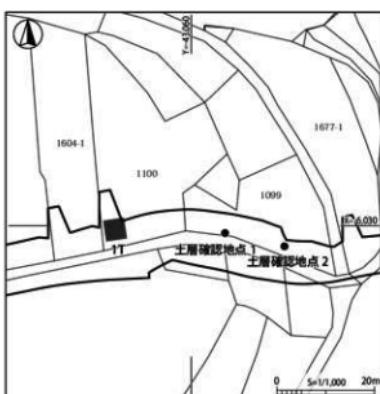
写真 30 山田神社門前遺跡群の調査状況



山田神社門前遺跡群の調査前状況（西から）



第 83 図 山田神社門前遺跡群調査位置図



第 84 図 山田神社門前遺跡群トレーニチ配置図



1 トレーニチの土層堆積状況（西から）

## 11 京塚遺跡

所在地：岱明町西照寺字中尾原 816-7

調査原因：専用住宅

対象面積：305.35m<sup>2</sup>

調査期間：平成 30 年 3 月 26 日

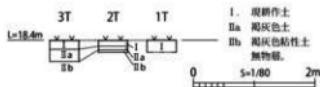
担当者：田熊秀幸

調査地は、行末川と今泉川に挟まれた丘陵上に位置する、標高約 18m の地点である。届出地とその周辺は、南側にかけて傾斜しているため、畑も段状になっている。

京塚遺跡は、弥生時代から古墳時代にかけての包蔵地とされているが、調査例が少ないため遺跡の性格は不明である。東側には、前方後円墳である院塚古墳が所在していたが、開発に伴い現在は消滅している。

建物予定地内の 3か所において土層を確認したところ、基本層序は地表下 10 ~ 20cm までが現代の耕作土（I 層）、以下が褐灰色の無遺物層（II 層）であった。II 層上面が遺構検出面の可能性があったため、面的検出を行ったが、明確な遺構は確認できなかった。耕作時の削平により、埋蔵文化財が残存する可能性は低いものとみられる。

工事の内容は、専用住宅の新築である。基礎の大掘削深度は 27cm で、一部において掘削が II 層に至るが、調査の結果から慎重工事となった。



第 88 図 京塚遺跡トレンチ実測図

写真 31 京塚遺跡の調査状況



京塚遺跡の調査前状況（北から）



第 86 図 京塚遺跡調査地位図



第 87 図 京塚遺跡トレンチ配置図



1 トレンチの調査状況（北から）

## 12 古川遺跡

所在地：下字池田 829-1 の一部外 7 筆

調査原因：倉庫

対象面積：24,049.85m<sup>2</sup>

調査期間：平成 29 年 10 月 30 日（立会と併行）

担当者：石松 直、田熊秀幸

調査地は、菊池川左岸に位置しており、標高約 7 m の地点である。低湿地帯であるが、弥生時代から中世にかけての包蔵地として周知されている。過去に弥生土器、土師器、瓦器、陶磁器などの遺物が確認されている。

南側では、九州新幹線建設に伴い県文化課によって太郎丸遺跡・祭田下遺跡・瀬萩遺跡で発掘調査が実施されている。太郎丸遺跡内には、梅林天満宮が所在している。

当敷地内は、昭和 46 年に日信陶器株式会社熊本工場として造成されており、工場閉鎖後は店舗として利用されていた。

確認調査の結果、地表面から約 1 m 下までは工場造成時の盛土であり、特に北東側は工場建物の基礎に伴い搅乱を受けている部分が多くあった。盛土の下位は旧耕作土、約 1.5 ~ 3 m 下までは砂層が厚く堆積しており河川氾濫原及び旧河道であったと考えられる。遺物は、古代以降の土器・陶磁器の小片がわずかに確認できたが、流れ込みと考えられ、遺構は確認できなかった。

工事の内容は、倉庫の新築であるが、基礎の最大掘削深度は 1.45 m であり、柱状改良で径 1 m の杭が 138 本入る計画である。

確認調査の結果から、慎重工事となった。

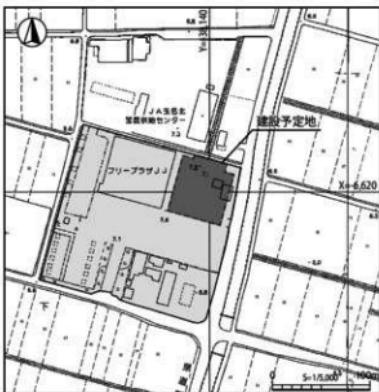
### <参考文献>

長谷部善一他 2010

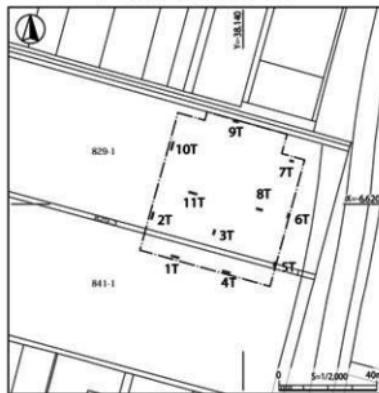
『太郎丸遺跡・西屋敷遺跡・瀬萩遺跡』熊本県文化財調査報告第 250 集 熊本県教育委員会

吉田徹也他 2009

『祭田下遺跡』熊本県文化財調査報告第 247 集 熊本県教育委員会



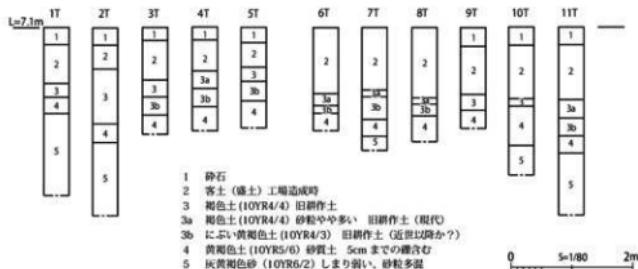
第 89 図 古川遺跡調査地位置図



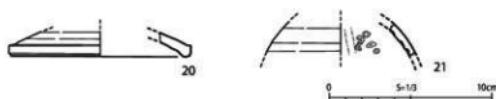
第 90 図 古川遺跡トレンチ配置図



写真 32 古川遺跡調査地状況（南から）



第 91 図 古川遺跡トレンチ柱状図



第 92 図 古川遺跡出土遺物実測図

写真 33 古川遺跡の調査状況



トレンチ掘削状況（南西から）



4 トレンチ土層堆積状況（南から）



7 トレンチ土層堆積状況（南から）



8 トレンチ土層堆積状況（南から）

平成28・29年度出土遺物実表



## IV 発掘調査（高岡原遺跡）

## 高岡原遺跡

所在地：山田字高岡原 2042-15

調査原因：店舗兼共同住宅

対象面積：275m<sup>2</sup>

調査期間：平成 29 年 5 月 1 日～7 月 31 日

担当者：石松 直、田熊秀幸

### 1. 調査に至る経緯

主体者から平成 28 年 9 月 30 日付で文化財保護法第 93 条による届出がなされた。工事の内容は、店舗兼共同住宅の建設である。建物の基礎掘削深度が約 42cm に達し、敷地全域で埋蔵文化財に対する影響を及ぼすため、平成 28 年 8 月 24 日に確認調査を実施した（II 章 17 頁参照）。調査の結果、埋蔵文化財が確認されたため協議を実施した。

平成 28 年 12 月 12 日付教文第 1823 号で熊本県教育長から工事の影響を受ける範囲に関しては発掘調査を実施するよう通知を受けた。玉名市教育委

員会から平成 29 年 4 月 24 日付玉市教文第 46 号にて、文化財保護法第 99 条による発掘調査の通知をし、平成 29 年度の市内遺跡国庫補助事業にて平成 29 年 5 月 1 日から調査に着手した。

### 2. 調査の体制（平成 29 年度）

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任 教育長 池田誠一

調査総括 教育部長 戸寄孝司

文化課長 竹田宏司

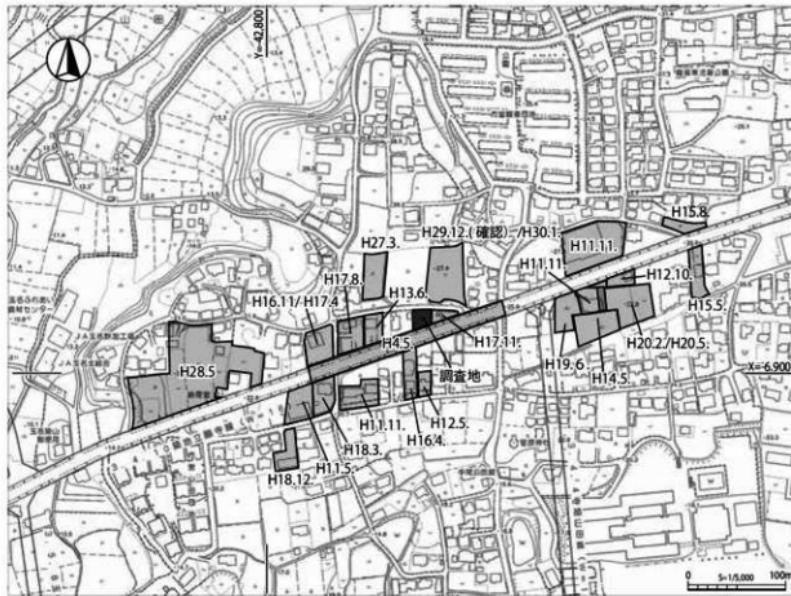
文化財係長 田中康雄

調査担当 技術主任 石松 直

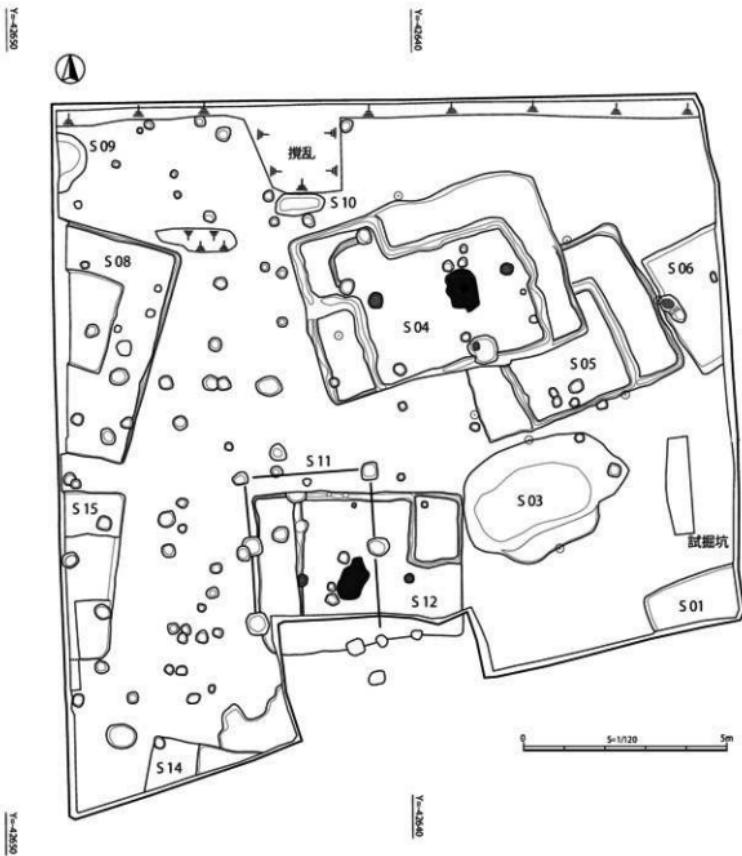
技師 田熊秀幸

発掘作業員 岩井光男、塚本廣二、中島明子、柳田道明、山口俊幸

整理作業員 尾崎延枝、五野富美子、坂崎郷子、早川イツエ



第 93 図 高岡原遺跡の位置と過去の調査範囲

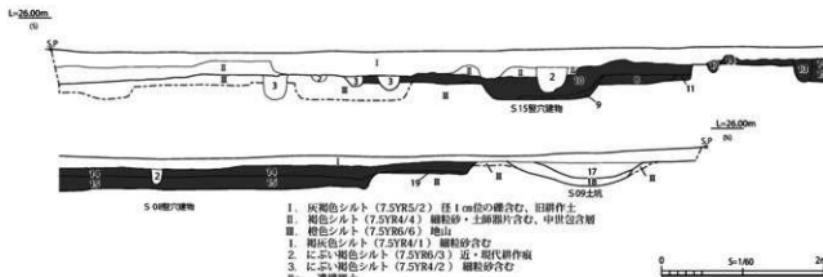


第94図 高岡原遺跡遺構配置図

### 3. 遺跡の位置及び周辺

調査地は、境川右岸丘陵上に位置する標高26m程の地点である。以前はブドウ畠として利用されていたが、その後は更地になっていた。現在鉄塔が建っている東側隣地は平成17年度に発掘調査を実施しており、弥生時代の住居跡が数基確認され、土器と共に袋状鉄斧などが出土している。南側に隣接する築地立願寺線の路線内も平成4年度に調査され、

24基の住居跡と共に後漢鏡（破鏡）や小型仿製鏡などが出土している。一帯は弥生時代後期から古墳時代にかけての集落が形成されていたと考えられる。遺跡範囲の西端は中世の「高岡屋敷」と伝えられており、平成28年度に実施した大型店舗建設に伴う調査では、中世の掘立柱建物6棟、溝状遺構1条などが検出され、14世紀～16世紀代の青白磁・瓦器などが出土している。



第95図 西壁土層断面図

#### 4. 基本層序

本調査区の基本層序は上位からⅠ層（耕作土）、Ⅱ層（中世遺物包含層）、Ⅲ層（地山）である。Ⅰ層は最近まで耕作されていたとみられる土壤であり、20cm程度の厚さを有して調査区全体に広がる。Ⅱ層は中世の遺物包含層とみられており、厚さ5cm程度を有して調査区の南側に分布する。土師器の小片を包含している。Ⅲ層は地山であり、溶結凝灰岩の表層が風化・土壤化して地山をなす。

本調査区では弥生時代の包含層が欠如し、中世の包含層も南側半分に見られるのみであることから削平を何度か受けたものとみられる。

#### 5. 調査の方法

確認調査の結果、遺構が検出され、工事の影響を受ける店舗兼共同住宅予定地の範囲 275m<sup>2</sup>を調査対象とした。調査は調査区がほぼ全域となるため分割して行った。東側から調査を開始し、西側半分は排土置場とした。調査後半では排土を搬出し、西側の調査を行った。確認調査による基本層序の検討で、遺構が検出可能となるⅢ層上面（地山面）で遺構検出面を設定し、重機でⅠ層とⅡ層の一部を除去した後にⅡ層の残りを人力掘削し、Ⅲ層上面（地山面）を露出させた後に遺構検出を行った。検出した遺構は通し番号で遺構番号を付して、半截もしくはサブトレを掘削し、遺構性格を明らかにした上で土層観察ベルトを残し掘削作業を行った。その中で遺構と判断できなかつたものは欠番とした。完掘後に全体の三次元計測及び写真撮影を行った。

#### 6. 調査の成果（検出遺構・遺物）

表土掘削を行い、Ⅲ層直上（地山面）で検出作業を行う。包含層はほぼ残っておらず、表土直下に地山がみられる区域が広い。遺構自体も削平が激しく、堅穴建物も掘方が浅く本来の形状を示していない可能性も高い。

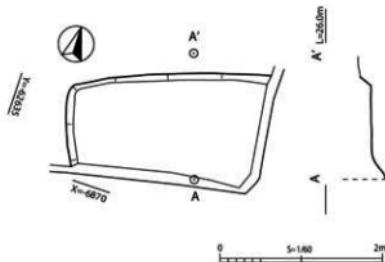
検出された遺構は堅穴建物が8棟、土壙が3基、掘立柱建物が1棟、ピットが126基である。遺構と出土遺物から遺構の形成時期は弥生中～後期、弥生後期末～古墳初頭、古代～中世の3期にわたるとみられる。削平が激しく検出面は同一面である。以下、遺構番号順に触れる。

##### S 01 （堅穴建物：弥生時代後期）【第96図】

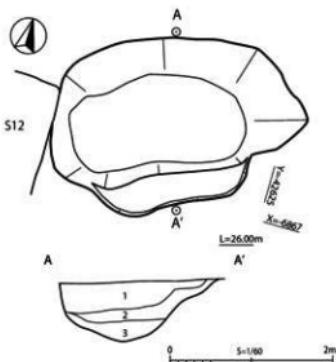
調査区南東隅で遺構が検出された。遺構の大半が調査区外になり、全体の形状は不明であるが、方形をなすとみられる。調査できた部分は東西2.6m南北1.5m、深さ0.3mを測る。検出範囲ではベッド状遺構はみられない。埋土に焼土、炭化物が混じる。出土遺物はなかったが、形状から弥生時代後期の堅穴建物跡の可能性が高い。

##### S 03 （土壙：弥生時代）【第97図】

弥生時代後期末の堅穴建物（S 12）に切られる梢円形を呈する土壙である。長軸3.2m、短軸2.2m、深さ0.8mを測る。埋土から弥生土器の細片が出土しているが時期は明確ではない。埋土は地山ブロックを多く含み、人為的に短時間に埋められたものとみられる。形状からみて、叢棺の抜き取り穴である可能性がある。



第96図 S01 積穴建物 平・断面図



第97図 S03 土壙平・断面図

#### S 04 (積穴建物: 弥生時代後期末) 【第98・108図】

遺構は方形を呈し、長軸が6.5m、短軸が4.4m、深さ0.3mを測る。長軸がほぼ東西方向を向くが東に17度振る。建物内遺構としては主柱とみられる2基のビット及び炉とみられる中央ビット、ベッド状遺構、周壁溝そしてビットから構成される。主柱とみられる2基は直径が25cm程度である。炉とみられる中央ビットは底面付近に炭化物が多く、底面は赤変硬化している。ベッド状遺構は南側以外の建物跡の3方にみられる。出入り口はベッド状遺構

のない南側に想定される。南側には長軸径約50cmの楕円形の土壙があり、壺の胸部が出土している。

本建物は複数回の改修が行われたとみられるが、ベッド状遺構の下に周壁溝が埋められていることからもみてとれる。

出土遺物は第108図1~6、8である。6以外は床面直上より出土したものである。1は口縁の立つ小型の鉢である。口縁はやや内側に反る。2は口縁の立つ小型の鉢である。1に比べ径が広い。3は脚付鉢である。4は甕とみられる。調整はハケで行われる。胸部にタタキ目がみられる。5は器台である。6は磨石・敲石である。破断している。側面に主に長軸方向の擦り痕がみられる。8は甕である。内側はハケで調整され、外側胸部上半はタタキ目がみられる。器壁が薄い。タタキ目のみられる脚付甕とそれに付随する土器群からみて、S 04の廃絶期は弥生時代後期末とみられる。

#### S 05 (積穴建物、弥生時代後期末) 【第98・108図・109図】

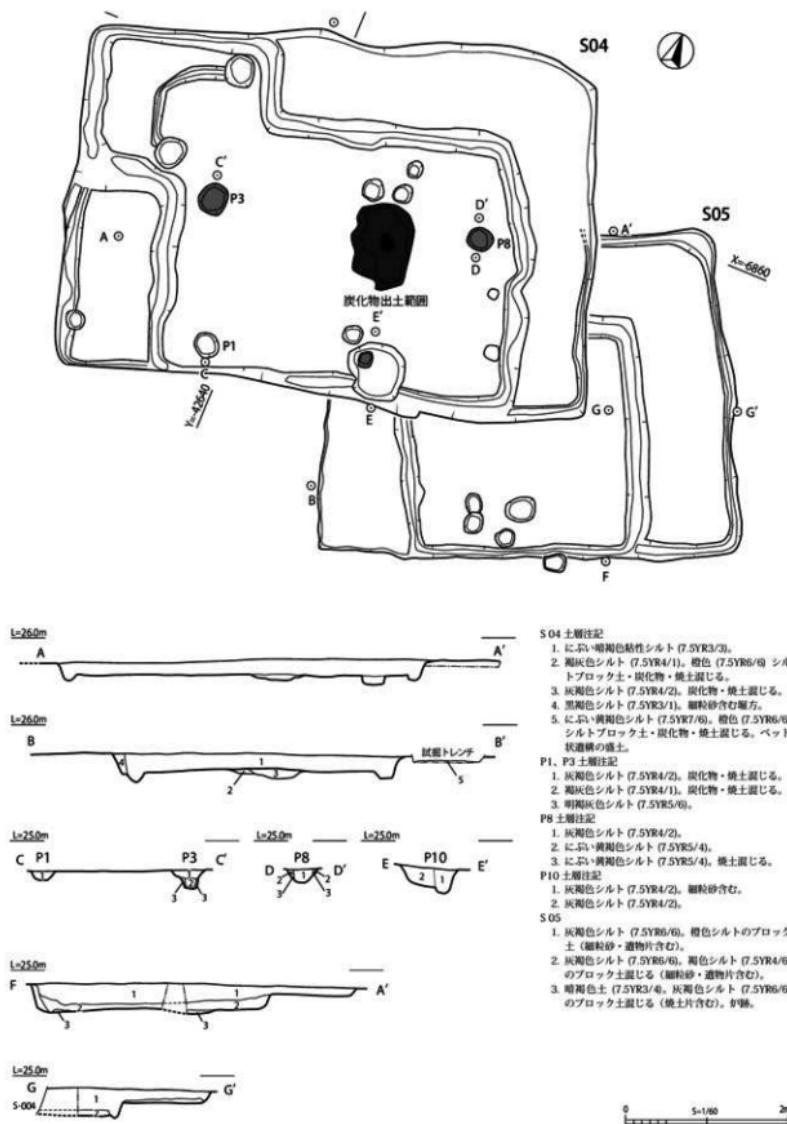
方形を呈し、長軸が5.1m、短軸が4.1m、深さ0.3mを測る。長軸がほぼ東西方向を向く。S 04 積穴建物に切られるため、それに先行する遺構である。建物内遺構としてはベッド状遺構と周壁溝がみられ、ベッド状遺構は南側以外の3方にみられる。出入り口はベッド状遺構のみられない南側と想定される。またこの建物跡は埋土に大量の炭化物が含まれ、床面が赤変しているため、火災建物であるとみられる。

出土遺物は土器、石器が出土しているが、削平を強く受けているため遺存状態は悪い。遺物は3点図化した。7は鉢である。口縁は外反する。9と10は小型の鉢の口縁部である。ともに口縁が内湾するタイプである。これらの遺物からみて、S 05の廃絶期は弥生時代後期末とみられる。

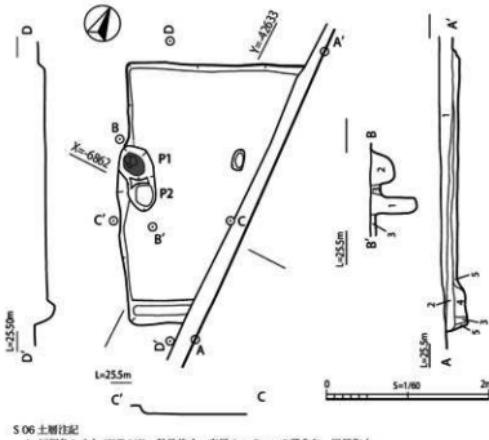
#### S 06 (積穴建物、弥生時代後期中葉) 【第99・109図】

遺構の東側半分は調査区外になり、全体の形状は不明であるが、方形を呈し、南北が3.2m、東西の検出長が2.3m、深さ0.1mを測る。

建物内遺構としては主柱とみられる1基のビッ



第 98 図 S04 S05 平・断面図



S 06 土壌注記

1. 深褐色シルト (7SYR4/2), 黏性強く、直径 1~2mm の礫含む。旧耕作土。
2. 深褐色シルト (7SYR5/2), 黏性強く、直径 1~2mm の礫含む。遺物片・埴土含む。
3. 深褐色土シルト (7SYR3/3) と褐色シルト (7SYR6/6) のブロック土。細粒砂混じる。周壁溝。
4. にぶ・褐色シルト (7SYR6/3) と褐色シルト (7SYR6/6) のブロック土。細粒砂混じる。
5. にぶ・褐色シルト (7SYR5/3) と灰褐色 (7SYR5/2) のブロック土。

ピット断面土壌注記 (B-B')

1. 深褐色シルト (7SYR4/1), 細粒砂含む。P2。
2. 褐色シルト (7SYR4/3), 細粒砂含む。P1。
3. 灰褐色シルト (7SYR5/2), 黏性弱く、直径 1~2mm の礫混じる。

第 99 図 S06 平・断面図

ト、周壁溝そして土壤から構成される。主柱は 2 基 1 対であるとみられるが、1 基は調査区外に位置すると想定される。検出された主柱ピットは径 30cm 程度で、深さは 40cm であった。本遺構は、強く削平されており、掘形は 5cm 程度しか残っていない。そのため、ベッド状遺構の有無については判断できなかった。

出土遺物は土器、石器が出土しているが、削平を強く受けているため遺存状態は悪い。12 と 13 は遺構の西側端の 2 基のピットのうち、P1 より出土したものである。11、14、15 は床直上から出土し、16 と 17 は埋土中より出土した。11 と 12 は小型の鉢である。口縁が内側に湾曲する。13 は口縁の立つ小型の鉢である。口縁はやや内側に反り、口径は広い。14 は甕の脚部であり、端部がやや丸い。15 は甕とみられるが、底部、脚部を欠く。表面はハケで調整され、タタキ目はみられない。16 はガラス質安山岩製のスクレイバーである。17 はガラス質安山岩の縦長剥片である。両側縁には使用痕が

みられる。16 は弥生時代の石器とみられるが、17 は弥生時代を含め縄文時代の可能性もある。

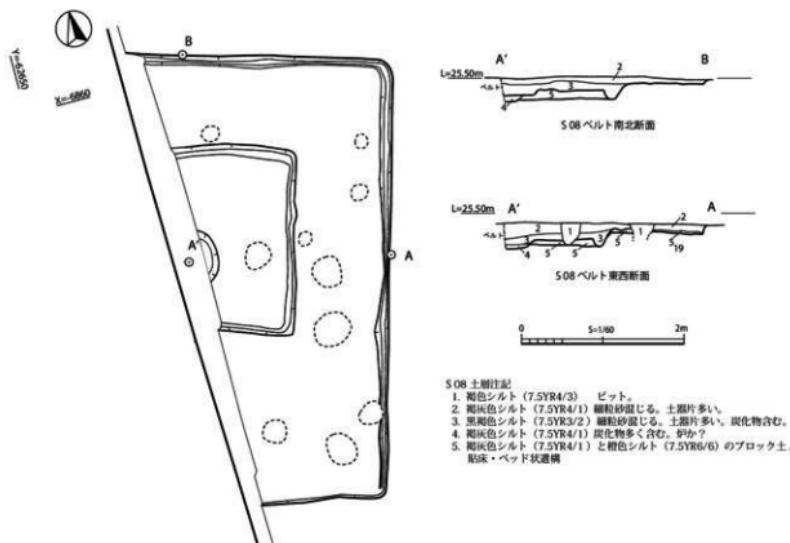
これらの遺物からみて、S06 の廃絶時期は弥生時代後期中葉であるとみられ、S04、S05 に先行する竪穴建物であるとみられる。

#### S 08 (竪穴建物、弥生時代後期末)【第 100・109・110 図】

遺構の東側半分は調査区外になり、全体の形状は不明であるが、方形を呈し、南北が 5.4m、東西の検出長 3.4m、深さ 0.4m を測る。規模的には S 04 と同等か、それ以上の規模があるとみられ、今回の調査区内の竪穴建物としては最大の可能性がある。

建物内遺構としてはピット、周壁溝、ベッド状遺構そして土壤から構成される。ピットは多く検出されたが、主柱とみられるピットは検出していない。ベッド状遺構は西側以外の 3 方で確認されているが、西側が調査区外であるため、西側は不明である。

出土遺物は土器と石器が出土している。18 は脚



第100図 S08平・断面図

部に透穴のある高杯である。20は脚部に透穴のある高杯であるが透穴は2個1対をなす。19は甕であるとみられるが底部、脚部を欠く。胴部外側にタキ目がみられる。21は砂岩製の砥石である。裏面を調整後、表面と側面を使用している。22は蔽石であり、周囲と中央に敲打痕がみられる。甕にタキ目が残ることから弥生時代後期末の遺物であるとみられる。S08の廃絶は弥生後期末であろう。

S04, S05と近い時期もしくは同時期に機能した竪穴建物であるとみられる。

#### S09(土壤、時期不明)【第101図】

調査区の北西端に位置する浅い土壤である。西半分が調査区外である。やや梢円形をなし、南北1.7m東西は調査区内で0.8m、深さ0.3mを測る。埋土は2層から構成される。出土遺物は無く、時期不明である。

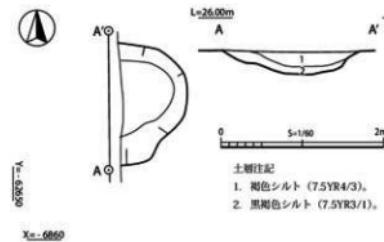
#### S10(土壤、弥生時代後期末)【第102・110図】

調査区の北端に位置する浅い土壤である。形状は

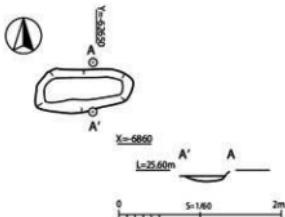
梢円形をなし、長軸1.2m、短軸0.5m、深さ0.2mを測る。長軸はほぼ東西方向に一致する。埋土は単層から構成される。出土遺物は高杯の脚部1点(23)が図化できた。23は高杯の脚部である。表面はタテナデが施される。胎土は精良で細かい。弥生時代後期末のものであろう。

#### S11(掘立柱建物、古代)【第103図】

調査区南部で検出された掘立柱建物であり、ピット6基から構成される。ピットの形状は隅丸方



第101図 S09平・断面図



第102図 S10平・断面図

形をなし、40cm程度のサイズである。削平をうけており、ピットの深さは30~40cm程度である。ピット埋土は黒褐色シルトであり、柱痕を残すピットがある(P1, P2)。建物規模は1間×2間もしくはそれ以上であるとみられる。現況では南北4.2m、東西3.1mを測る。南北軸は北から東側に2度ほど振る。

弥生時代後期末の竪穴建物S12を切るためにピット埋土から弥生土器が多数出土するが、遺構形成・廃絶期にわたる遺物は確認できなかった。遺構の特徴からみて古代の掘立柱建物である可能性が高い。この建物の長軸方向が以前調査された東隣の調査区で検出されている古代溝の方向にほぼ沿っており、同様の空間プランに基づいて建築された可能性がある。

#### S12(竪穴建物、弥生時代後期末)【第104・110図】

方形を呈し、長軸が5.0m、短軸が4.0m、深さ0.2mを測る。長軸がほぼ東西方向を向く。遺構の南縁が調査区外になるが試掘時に南縁は確認されている。古代の掘立柱建物(S11)に切られる。

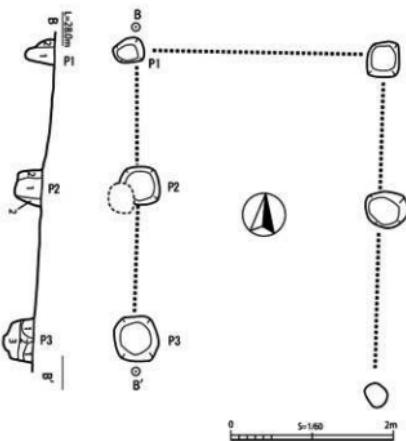
建物内遺構としてはピット及び炉とみられる中央ピット、ベッド状遺構、周壁溝から構成される。主柱と思われるピットは1、炉の東西両側のベッド状遺構に沿って1対(P1, P2)みられる。炉とみられる中央ピットは底面付近に炭化物が多く、底面は赤変化している。ベッド状遺構は東側の北隅に、西縁に沿って2箇所にみられる。埋土には炭化物が含まれ、中央ピット北側の床面が赤変している。

出土遺物は弥生土器と鉄器が出土している。遺構埋土から出土した遺物は土器の細片が多く、図化できたものも破片ばかりである。遺物の全容に関する情報は貧弱である。24は甕の口縁である。25と26は甕の脚部である。27は鉢の底部である。28と29は高杯の口縁である。30は甕の口縁であり外側に工具痕がみられる。31は鉢もしくは脚付鉢の口縁である。32は高杯の口縁である。33は高杯の脚部であり、脚部上半が空洞化せず、脚下半が外側に屈曲して広がる点は畿内の影響を受けているが、弥生時代後期の範疇で古墳時代初頭に及ぶことは無いとみられる。34は鐘の先端部である。

これらの遺物からS12の廃絶時期は弥生時代後期末に留まり、古墳時代初頭には及ばないとみられる。また、同時期の他遺構の土器組み合わせとやや趣が異なる。

#### S14(竪穴建物、弥生時代後期末)【第105図】

調査区南西隅で検出された遺構である。遺構のほ



#### S11 土解説記

P1

1. 黒褐色シルト(7SYR54/1)。粘性あり。遺物・焼土片多く含む。
2. 暗灰色シルト(7SYR54/1)。粘性あり。

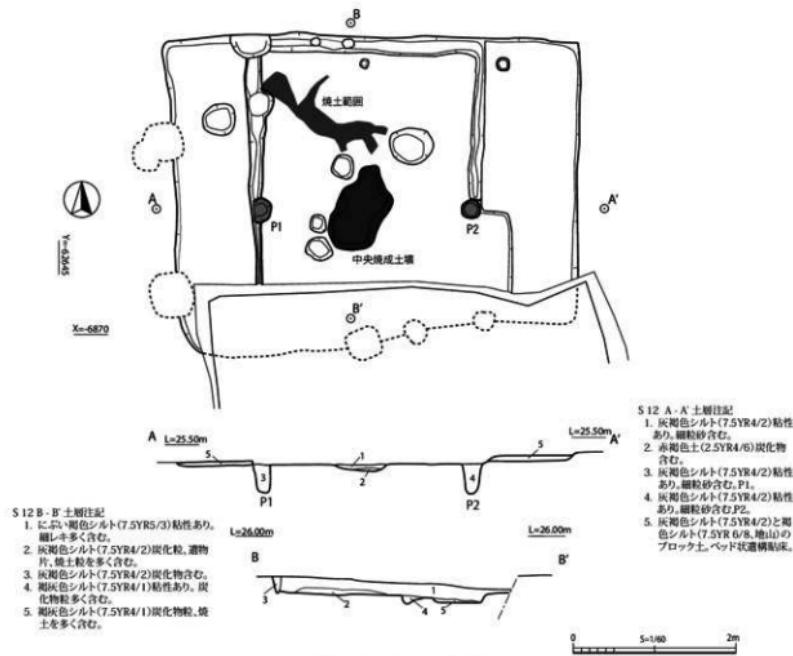
P2

1. 黑褐色シルト(7SYR5/2)。粘性あり。遺物片含む。
2. 1.と暗灰色シルト(7SYR6/6)のプロック土。

P3

1. 黑褐色シルト(7SYR5/2)。粘性あり。
2. 1.と暗灰色シルト(7SYR6/3)。細粒砂含む。
3. 2.と暗色シルト(7SYR6/6)のプロック土。

第103図 S11平・断面図



第104図 S12 平・断面図

とんどが調査区外になるため正確な規模は解らないが、方形を呈し、検出部分の長軸が2.7m、短軸が1.5m、深さ0.1mを測る。建物内遺構としてはベッド状遺構が西側にみられる。

出土遺物は見られないが、方形をなし、ベッド状遺構を持つことから弥生時代後期の竪穴建物と考えられる。

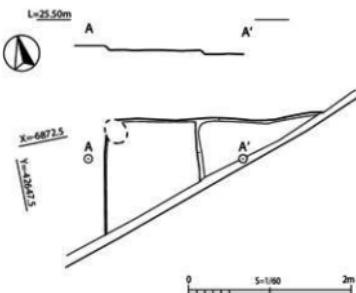
#### S 15 (竪穴建物、弥生時代後期)【第106・110図】

調査区西隅で検出された遺構である。遺構のほとんどが調査区外になるため正確な規模は解らないが、やや歪な方形を呈し、南北が4.2m、東西は検出部分が1.4m、深さ0.4mを測る。横軸は東西方向にほぼ沿う。

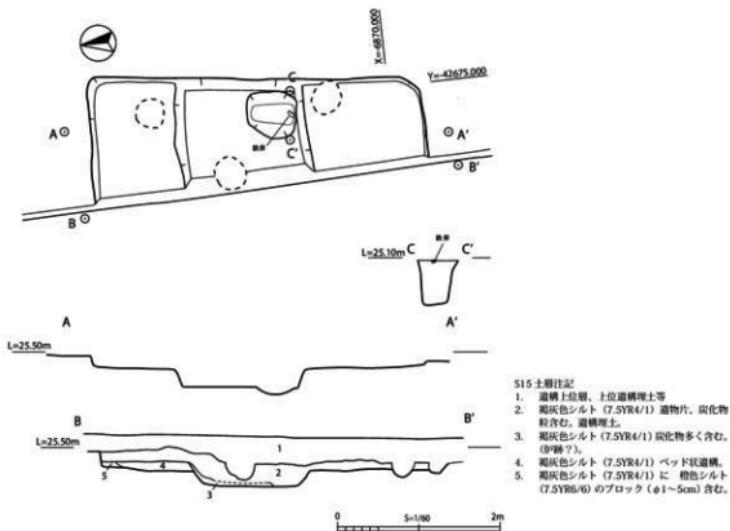
建物内遺構としてはベッド状遺構と土壌がみられ、ベッド状遺構は建物の南北側にみられ、東側にはみられない。西側が調査区外であるため、西側の

ベッド状遺構の有無については不明である。土壌は中央部の床面の南西隅に南側のベッド状遺構と東側の壁に接して掘られている。最上位より大型の袋状鉄斧が出土している。

遺物は土器、鐵器が出土している。35から37



第105図 S14 平・断面図



第 106 図 S15 平・断面図

は高杯片である。40 は小型の壺である。器壁は非常に薄い。35-38、40 は弥生土器の範疇に入るとみられ、弥生時代後期末のものであろう。41 と 42 は古代のピットからの混入であるとみられる。41 は内黒の黒色土器である。42 は須恵器腹片である。古代のものであろう。39 は大型の袋状鉄斧である。長さ約 12cm を測り、弥生時代後期末のものとみられる。

#### まとめ

今回の調査では弥生時代の竪穴建物・土壤、古代の掘立柱建物を検出した。竪穴建物は弥生時代後期を中心とし、一部は古墳時代初頭に及ぶ可能性もある。建物の方向性をみると大きく 3 つのグループにわかれ、調査区東側には軸が西に振れる竪穴建物 (S01, S04, S05, S06) が多く、弥生後期末頃の遺物に富む (グループ 1)。S06 はやや古く、剥片石器が出土する。調査区西側には軸が東に振れる竪穴建物 (S08, S14) がみられ、弥生後期末頃の遺物が出土する (グループ 2)。そしてほぼ東西南北に軸が揃うグループ 3 (S12, S15) は出土遺物の趣が異なつ

ており、畿内の影響を受けた土器や鉄器が伴う。東隣の調査区でも同時期の竪穴建物が多く検出されているが、1 軒以外はグループ 1 に属する。土壤は 3 基検出しているが、遺物が少なく、S10 のみ弥生時代後期であることがわかっている。S03 は甕棺の抜き取り痕である可能性がある。次に掘立柱建物であるが、時期を示す遺物は得られていないが、柱穴が柱痕よりも大きいやや方形の振形をもつ特徴から古代のものであるとみられる。東隣の調査区で検出されている南北方向に延びる古代溝と同じ方向を向いており、同時期の可能性もある。今後、他調査区との比較を通して集落構造と土地利用の歴史を解明していく必要がある。

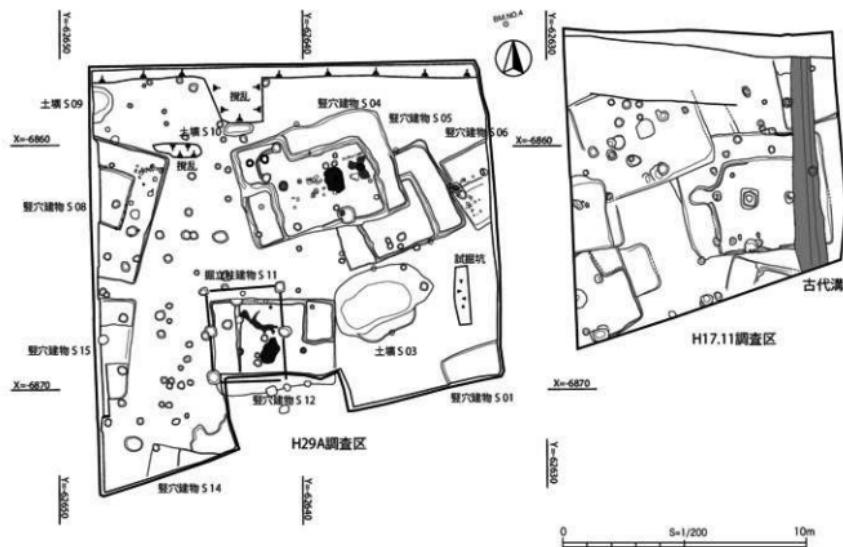
#### <参考文献>

董父雅史 編集 2009

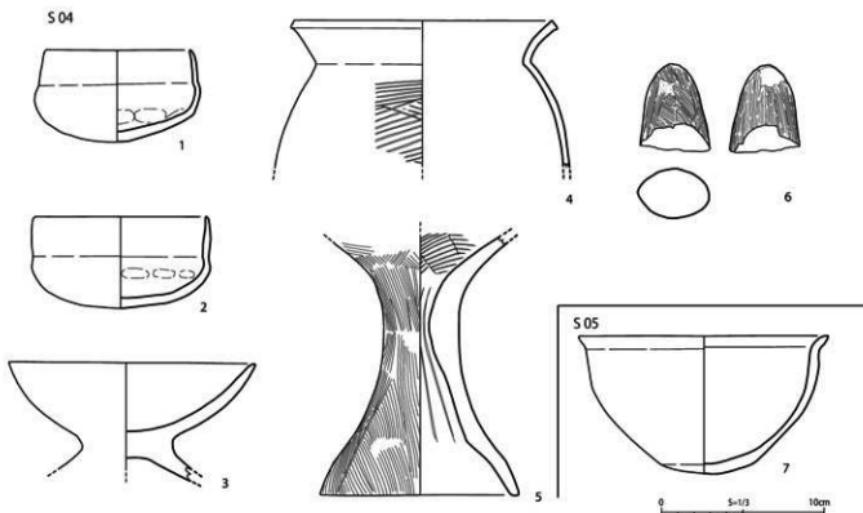
「高岡原遺跡」玉名市内遺跡調査報告Ⅴ』玉名市文化財調査報告第 18 集 玉名市教育委員会

古森政次 2018

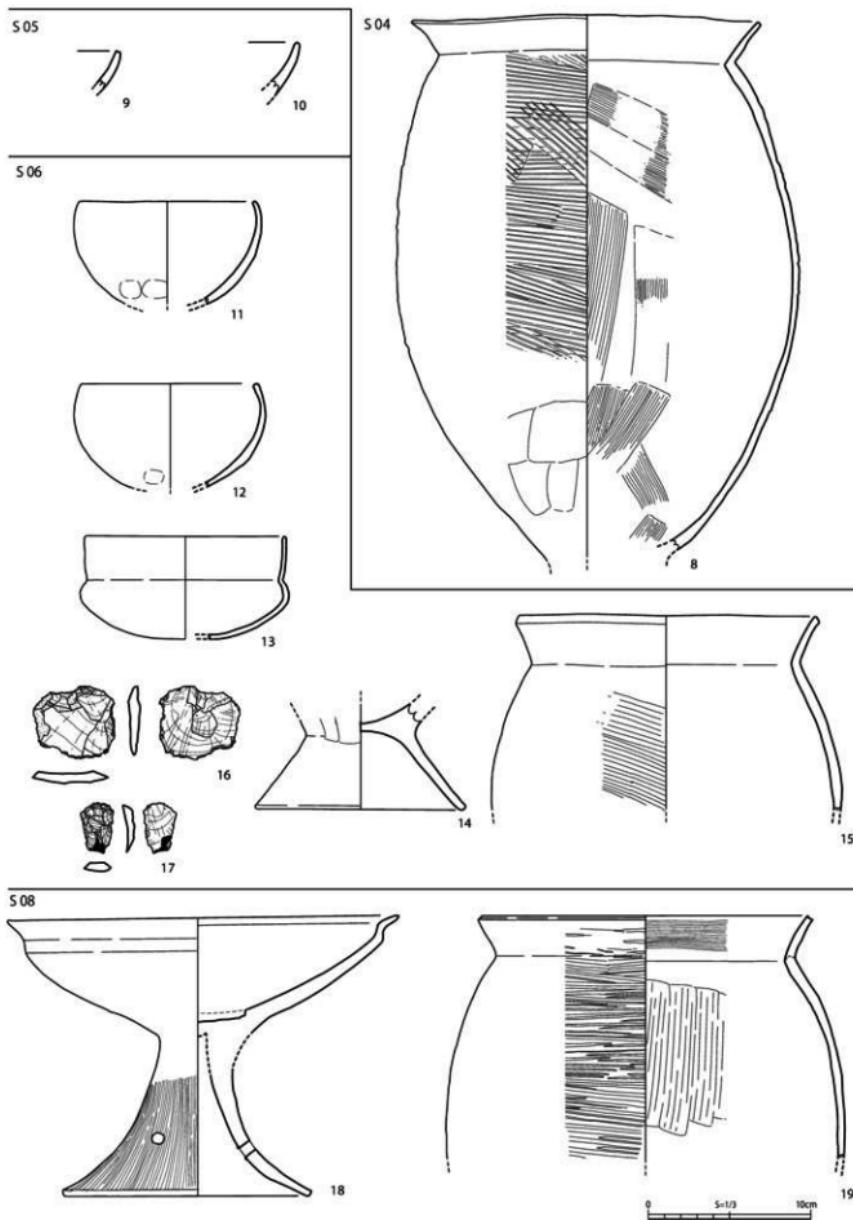
『高岡原遺跡』玉名市文化財調査報告第 35 集 玉名市教育委員会



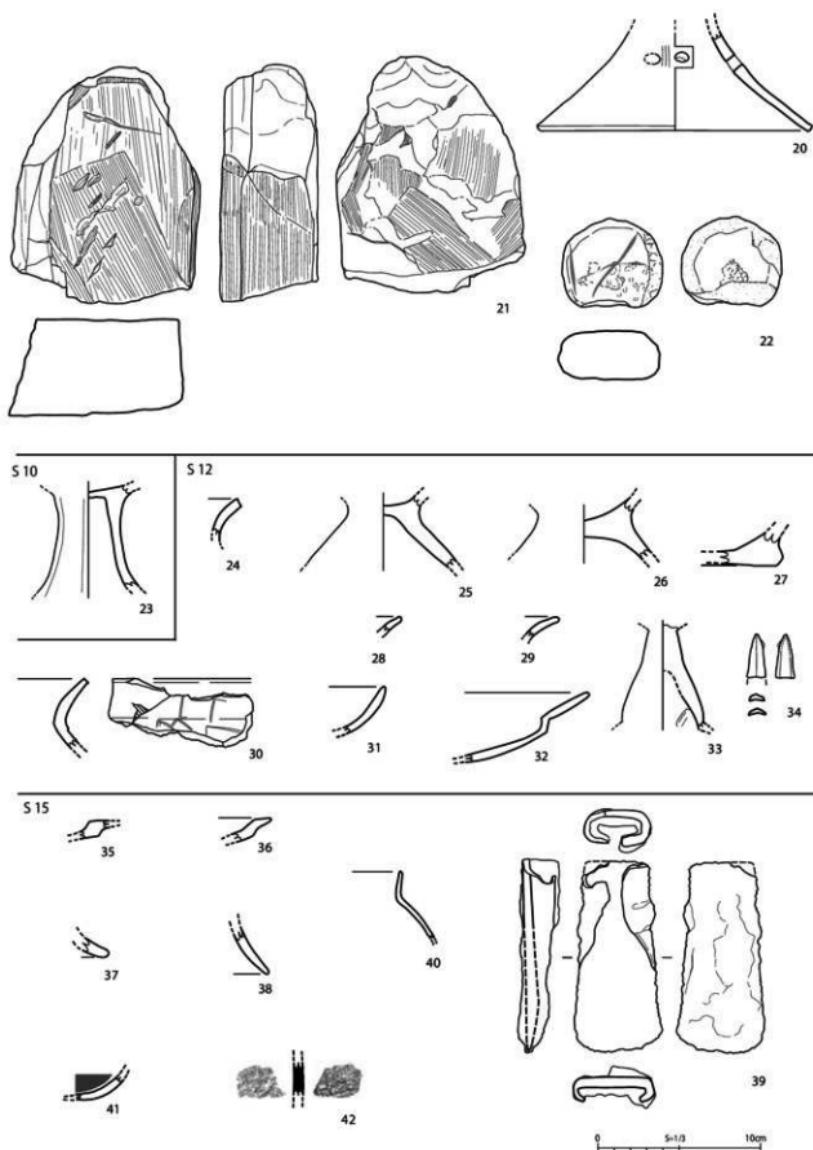
第107図 周辺遺構配置図



第108図 高岡原遺跡出土遺物実測図 1



第109図 高岡原遺跡出土遺物実測図2



第110図 高岡原遺跡出土遺物実測図3

写真 34 高岡原遺跡調査状況 1



遺構検出状況 (S08)



遺構掘削状況 (S08)



S01 穹穴建物 (北東から)



S03 土壙 (東から)



S04 穹穴建物 (北から)



S04 台石と遺物出土状況 (南西から)

写真 35 高岡原遺跡調査状況 2



S05 穹穴建物（北から）



S06 穹穴建物（北東から）



S08 穹穴建物（北から）



S08 遺物出土状況（北東から）



S09 土壌（北から）



S10 断面と遺物出土状況（西から）

写真36 高岡原遺跡調査状況3



S12 穹穴建物（南から）



S14 穹穴建物（北から）



S15 穹穴建物（北から）



S15 鉄斧出土状況（西から）



完掘状況（西から）



完掘状況（北から）

第3表 H29年度高岡町遺跡出土遺物目録表（土器類）1

番号	通名	出土地点	種別	容積	内径	外径	高さ	施	施
第 108 号 1	高岡町遺跡	S04	外生上層	鉢	[18cm~底部] 8.8	直径10.2	5.7	-	2mm の底・底石粒 含む。内側に擦痕有り。
第 108 号 2	高岡町遺跡	S04	外生上層	鉢	[18cm~底部] 10.6	直径11.0	5.7	-	1~3mm の底・底石粒 含む。内側に擦痕有り。
第 108 号 3	高岡町遺跡	S04	外生上層	碗	[18cm~底部] 15.3	-	(17.1)	-	2mm の底・底石粒 含む。内側に擦痕有り。
第 108 号 4	高岡町遺跡	S04	外生上層	甕	[18cm~底部] 15.9	-	(9.0)	縁ナデ タキナリ ナデ ハケ日	4mm の底・底石粒 含む。内側に擦痕有り。
第 108 号 5	高岡町遺跡	S04	外生上層	器形	-	12.2	(15.5) ハケ日	-	1~4mm の底・底石粒 含む。内側に擦痕有り。
第 108 号 6	高岡町遺跡	S05	外生上層	鉢	[18cm~底部] 15.4	7.5	ナデ	ナデ ハケ日	1~3mm の底・底石粒 含む。内側に擦痕有り。
第 109 号 8	高岡町遺跡	S04	外生上層	甕	[18cm~底部] 21.5	直径24.9	(33.6) ハケ日	タキナリ ナデ ハケ日	4mm の底・底石粒 含む。内側に擦痕有り。
第 109 号 9	高岡町遺跡	S05	外生上層	鉢	[18cm~底部] -	-	(2.5)	ナデ	-
第 109 号 10	高岡町遺跡	S05	外生上層	鉢	[18cm~底部] -	-	(3.4)	-	2mm の底・底石粒 含む。内側に擦痕有り。
第 109 号 11	高岡町遺跡	S06	外生上層	鉢	[18cm~底部] 11.0	直径11.6	(6.3)	ナデ 縁	2mm の底・底石粒 含む。内側に擦痕有り。
第 109 号 12	高岡町遺跡	S06 P.1	外生上層	鉢	[18cm~底部] 10.8	直径11.8	(6.4)	ナデ 縁	2mm の底・底石粒 含む。内側に擦痕有り。
第 109 号 13	高岡町遺跡	S06 P.1	外生上層	鉢	[18cm~底部] 12.4	直径12.9	(6.3)	-	1~3mm の底・底石粒 含む。内側に擦痕有り。
第 109 号 14	高岡町遺跡	S06	外生上層	甕	[18cm~底部] 12	-	(4.5)	縁足と縁の合間に工 縁	2mm の底・底石粒 含む。内側に擦痕有り。
第 109 号 15	高岡町遺跡	S06	外生上層	甕	[18cm~底部] 18.4	直径21.6	(12.1)	ナデ ハケ日	-
第 109 号 18	高岡町遺跡	S08	外生上層	高杯	[18cm~底部] 24	9.8	17.3	ナデ ハケ日 遠穴 ナデ ハケ日	2mm の底・底石粒 含む。内側に擦痕有り。
第 109 号 19	高岡町遺跡	S08	外生上層	甕	[18cm~底部] 20	直径24.6	(15)	タキナリ ナデ ハケ日	2mm の底・底石粒 含む。内側に擦痕有り。
第 110 号 20	高岡町遺跡	S08	外生上層	高杯	-	-	17	ハケ日 ナデ ナデ ハケ日	2mm の底・底石粒 含む。内側に擦痕有り。
第 110 号 23	高岡町遺跡	S10	外生上層	高杯	-	-	(6.7)	縁ナデ ナデ ハケ日	2mm の底・底石粒 含む。内側に擦痕有り。
第 110 号 24	高岡町遺跡	S12	外生上層	甕	[18cm~底部] -	-	(2.7)	ナデ ナデ ハケ日	2mm の底・底石粒 含む。内側に擦痕有り。
第 110 号 25	高岡町遺跡	S12	外生上層	甕	-	-	(4.5)	-	2mm の底・底石粒 含む。内側に擦痕有り。

第4表 H29年度高岡原跡出土遺物調査表(土器類) 2

番号	通名	出土地点	種別	器種	矢先部	法縫 front	縫合縫合	外縫縫合	内縫縫合	外色	内色	地質	備考
26	高岡原遺跡	S1.2	介生土器	鉢	縫合	-	(4.0)	-	-	7.5YR7/8 鮎褐色	7.5YR7/8 鮎褐色	0.5~1mm の石英、長石 0.5~2mm の石英、長石 0.5~3mm の石英、長石 0.5~4mm の石英、長石 0.5~5mm の石英、長石	普通
27	高岡原遺跡	S1.2	介生土器	鉢	縫合	-	(2.0)	-	-	7.5YR8/6 鮎褐色	7.5YR8/6 鮎褐色	0.5~1mm の石英、長石 0.5~2mm の石英、長石 0.5~3mm の石英、長石	普通
28	高岡原遺跡	S1.2	介生土器	盆	縫合	-	(1.0)	ヨコナガフ	-	7.5YR7/4に及ぶ褐色	7.5YR7/4に及ぶ褐色	0.5~1mm の石英、長石 0.5~2mm の石英、長石 0.5~3mm の石英、長石	普通
29	高岡原遺跡	S1.2	介生土器	盆	縫合	-	(1.2)	-	-	5YR8/6 鮎褐色	5YR8/6 鮎褐色	0.5~2mm の石英、長石 0.5~3mm の石英、長石 0.5~4mm の石英、長石	普通
30	高岡原遺跡	S1.2	介生土器	甌	縫合	-	(4.5)	工具跡	-	7.5YR7/6 鮎褐色	7.5YR7/6 鮎褐色	0.5~2mm の石英、長石 0.5~3mm の石英、長石 0.5~4mm の石英、長石	良好
31	高岡原遺跡	S1.2	介生土器	鉢	縫合	-	(0.6)	ナフ	-	7.5YR7/6 鮎褐色	7.5YR7/6 鮎褐色	0.5~1mm の石英、長石 0.5~2mm の石英、長石 0.5~3mm の石英、長石	普通
32	高岡原遺跡	S1.2	介生土器	盆	縫合	-	(4.4)	-	-	7.5YR8/6 鮎褐色	7.5YR8/6 鮎褐色	0.5~1mm の石英、長石 0.5~2mm の石英、長石 0.5~3mm の石英、長石	普通
33	高岡原遺跡	S1.2	介生土器	盆	縫合	-	(6.7)	-	-	7.5YR8/6 鮎褐色	7.5YR8/6 鮎褐色	0.5~1mm の石英、長石 0.5~2mm の石英、長石 0.5~3mm の石英、長石	普通
35	高岡原遺跡	S1.5	介生土器	盆	縫合	-	(1.2)	-	-	10YR7/4に及ぶ褐色	7.5YR7/6 鮎褐色	0.5~1mm の石英、長石 0.5~2mm の石英、長石 0.5~3mm の石英、長石	普通
36	高岡原遺跡	S1.5	介生土器	盆	縫合	-	(1.5)	-	-	7.5YR8/6 鮎褐色	7.5YR8/6 鮎褐色	0.5~2mm の石英、長石 0.5~3mm の石英、長石	普通
37	高岡原遺跡	S1.5	介生土器	鉢?	縫合?	-	(1.2)	-	-	5YR8/6 鮎褐色	5YR8/6 鮎褐色	0.5~1mm の石英、長石 0.5~2mm の石英、長石 0.5~3mm の石英、長石	普通
38	高岡原遺跡	S1.5	介生土器	鉢	縫合	-	(0.6)	-	-	7.5YR7/6 鮎褐色	7.5YR7/6 鮎褐色	0.5~1mm の石英、長石 0.5~2mm の石英、長石 0.5~3mm の石英、長石	普通
40	高岡原遺跡	S1.5	介生土器	甌	縫合	-	(4.1)	粘土紅鉄	粘土紅鉄	7.5YR8/6 鮎褐色	7.5YR8/6 鮎褐色	0.5~1mm の石英、長石 0.5~2mm の石英、長石 0.5~3mm の石英、長石	良好
41	高岡原遺跡	S1.5	黒色土器	甌	縫合	-	(1.5)	ナフ	ナフ	7.5YR7/6 鮎褐色	10YR2/1 黑褐色	0.5~1mm の石英、長石 0.5~2mm の石英、長石 0.5~3mm の石英、長石	普通
42	高岡原遺跡	S1.5	無縫合	甌	縫合	-	(2.1)	縫合付ナホト	縫合付ナホト	10YR2/2 黑褐色	5YR8/6 鮎褐色	繊維状物、筋目 繊維状物、筋目	やや不良

第 5 表 H29 年度高岡原遺跡出土遺物測量表（石器類）

番号	遺物名	出土地点	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	備考
第 108 号 6	高岡原遺跡	S.04	磨石・敲石	15.4	4.4	(3.1)	69	細粒砂岩	先端に二枚刃、側面削き面
第 109 号 16	高岡原遺跡	S.06	磨石	4.9	4.5	0.8	17	ガラス状の小片	2 枚に削用面
第 109 号 17	高岡原遺跡	S.06	磨石断片	2.9	2.1	0.5	3	ガラス状の小片	2 枚に削用面
第 110 号 21	高岡原遺跡	S.08	敲石	(14.8)	11.4	5.9	1680	平行削除片	3 前使用
第 110 号 22	高岡原遺跡	S.08	磨石・敲石	6.2	(5.7)	3.0	121	平行削	3 前使用

第 6 表 H29 年度高岡原遺跡出土遺物測量表（鉄器類）

番号	遺物名	出土地点	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	備考
第 110 号 34	高岡原遺跡	S.12	筒	(2.6)	(1.2)	0.4	2	丸頭部	
第 110 号 39	高岡原遺跡	S.15 内 土器	袋足焼片	11.9	5.0	2.1	207	片先に削用面あり	

V 保存修復  
(大塚古墳舟形石棺保存修復)

## 大塚古墳舟形石棺保存修復等業務委託

### 1. 大塚古墳について

大塚古墳は、玉名市天水町大字立花に所在する前方後円墳である。唐人川左岸の標高約 51 m の丘陵上に位置しており、当古墳を含む経塚古墳・小塚古墳・経塚西古墳の 4 基は、平成 10 年度に「経塚・大塚古墳群」として熊本県指定史跡となっている。

これらの古墳群は 4 ~ 5 世紀の築造とされ、有明海沿岸の古墳変遷を考えるうえでも重要な位置を占めている。

大塚古墳は、從来円墳とされてきたが、平成 11 年度に行った発掘調査で後円部に接続するくびれ部が確認され、墳長 100 m 前後の前方後円墳と判明した。後方部は後世の蜜柑畑造成などで形状が不明確であるが、後円部は残存状況が良く、墳頂で 2 基の埋葬施設が検出されている。第 1 号主体部は盜掘により壊乱を受けた。舟形石棺も割られ破片が数点残存するのみであった。また、副葬品は鉄刀片 5 点、鉄劍片 3 点、鐵鏃 20 点以上、鉄斧 1 点、ヤリガンナ 1 点、鎌鋤先 1 点、鑿状鉄斧もしくは鉄鉢 1 点などの鉄器が残存していた。第 2 号主体部は未調査であるが、同様に舟形石棺とみられていく。

### 2. 舟形石棺と保存修復の経緯

石棺は、削り抜き式の舟形石棺であり、石材は灰色のア蘇溶結凝灰岩である。当古墳は調査前から墳頂部に同様の石材が散乱していた。これらの石材と発掘調査時に主体部から出土した石棺材は一時的に接合が試みられた。その多くは棺身の部分であり、棺蓋は片側の縄掛突起部のみであった。棺身も接合できたのは、小口部分から側縁にかけて全体の約 1/2 弱であった。棺身上端から約 15 cm 下の周縁には幅 10 cm 前後の舟べり状周縁突帯が巡る。底部は欠損しているが、残存する側面の湾曲状況から断面形は蒲鉾型に近い形状と推測された。

表面の調整は、周縁突帯上位が削りの単位が細かく丹念なのに対して、下位は削りの単位が大きく粗いということが観察された。

このように一時的に接合復元され、整理作業及び

報告書が刊行されたのは平成 12 年度であった。そして旧天水町公民館の文化財収蔵室に保管されることとなつたが、石棺材は接着せず土嚢袋で固定する状態であった。

その後、平成 17 年に天水町は玉名市と合併し、教育委員会にも文化課が新設される事になった。

平成 28 年 4 月に震度 6 弱の熊本地震が発生し、市の文化財にも多大な被害が出た。経塚古墳石棺は小口部分が剥離し、毀損届を提出した。天水町公民館にこれまで保管されていた大塚古墳石棺も仮接合であったため、石材が散乱する状況であった。このような経緯から、平成 29 年度に国庫補助事業にて保存修復を委託して行う事になった。

### 3. 保存修復の組織（平成 29 年度）

事業主体 玉名市教育委員会

事業責任 教育長 池田誠一

事業総括 教育部長 戸倉孝司

文化課長 竹田宏司

課長補佐 兵谷有利（博物館係長兼務）

文化財係長 田中康雄

庶務担当 主査 中村安宏

監督員 主査 中村安宏

修復指導 高木恭二

受託者 株式会社 萩文化

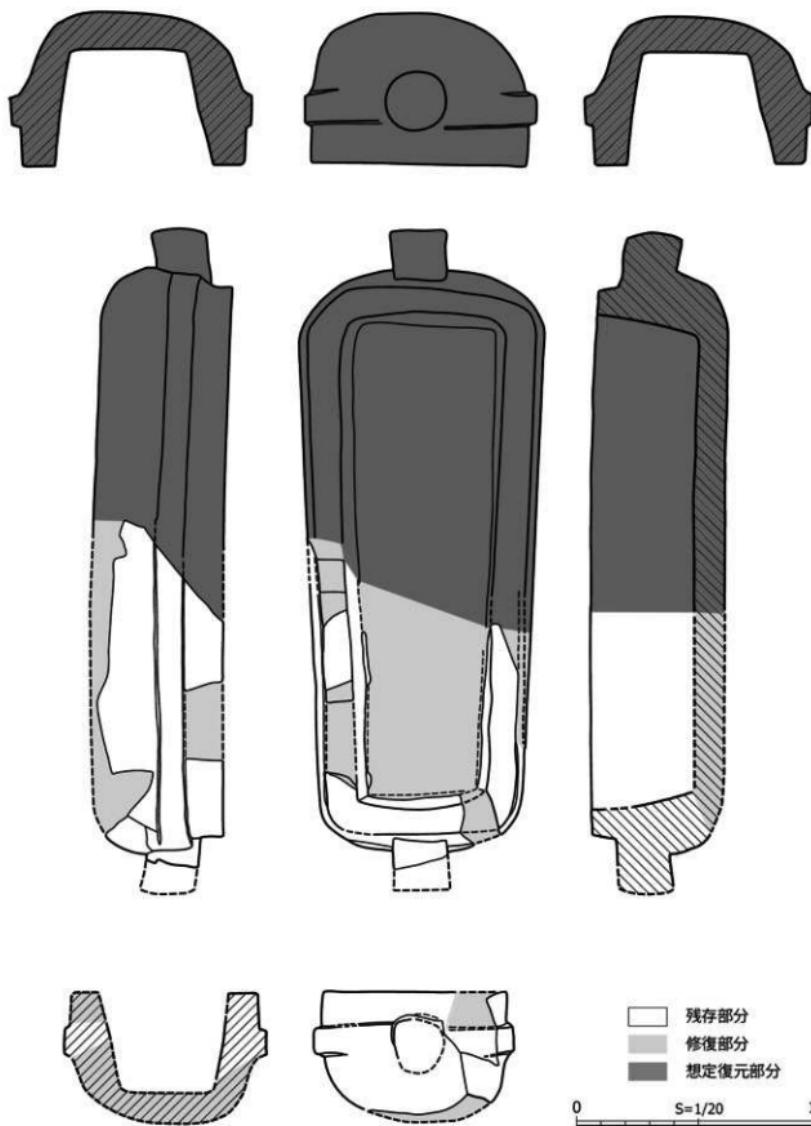
#### <参考文献>

中村安宏・古城史雄 2001

『大塚古墳』天水町文化財調査報告第 2 集



写真 37 大塚古墳後円部の現状（北から）



第 111 図 大塚古墳舟形石棺修復復元図



写真38 大塚古墳舟形石棺（保存修復前）



写真39 修復後

## 1. 業務概要

- |   |       |   |
|---|-------|---|
| 1 | 業務委託名 | 大塚古墳舟形石棺保存修復等業務委託   |
| 2 | 業務場所  | 株式会社 葵文化 文化財保存処理センター  |
| 3 | 委託者   | 玉名市   |
| 4 | 受託者   | 株式会社 葵文化  |
| 5 | 委託料   | ¥ 5,832,000-  |
| 6 | 委託期間  | 自 平成29年7月6日<br>至 平成30年3月23日   |
| 7 | 業務内容  | <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 石棺部材の引き取り</li><li>(2) 石材組み合わせ確認・石材調査</li><li>(3) 石材クリーニング</li><li>(4) 石材接合作業（一次接合、二次接合）</li><li>(5) 欠損部の復元作業</li><li>(6) 擬石処理作業</li><li>(7) 樹脂含浸作業（石材接合時、石棺表面処理完了時）</li><li>(8) 石棺重量測定作業</li><li>(9) 石棺納品作業</li></ul> |

## 2. 全体業務概要

当業務は、玉名市天水町に所在する大塚古墳の発掘調査により出土した舟形石棺の部材について、修復復元図を元に石棺全体を修復及び復元する業務である。

修復及び復元に関しては、玉名市教育委員会教育部文化課が作成した修復復元図（第〇〇図）を元に石棺全体の形状を復元を行い、併せて展示台を製作し、その後玉名市天水体育館正面階段下の仮展示施設内に設置を行うものである。

作業内容は、石棺部材の引き取り、石棺組み合わせ確認・石材調査、石材クリーニング、石材接合作業（一次接合、二次接合）欠損部の復元作業、擬石処理作業、樹脂含浸作業（石材接合時、石棺表面処理完了時）、納品作業等であった。

## 3. 使用資機材一覧表

ラフテレンクレーン	13t 吊
防音型発電機（ガソリン）	2.5kVA
電動ハンドミキサー	100V
エポキシ樹脂（コニシ製）	E-209
擬石用エポキシ樹脂（三恒商事製）	サイト FX
擬石用粉碎石粉	人吉産凝灰岩
アラッカウイロバーレン（三洋製粉製）	EMC-80
珪砂（熊本珪砂製）	K-3、K-5
ステンレス全ねじボルト（SUS304相当品）	φ13mm、φ16mm
アクリル樹脂	バラロイド B72
石材強化剤（シリコン系樹脂）	ワッカー OH-100
石材強化剤（アクリル系樹脂）	アクト OM-50

## 4. 業務内容

### （1）石棺部材引き取り

玉名市天水支所の近くの施設に保管されていた石棺部材を3t及び1tトラックを用いて八代市海士江町に所在する（株）葵文化 文化財保存処理センター内へ搬入を行った。

写真 40 大塚古墳舟形石棺保存修復状況 1



石棺部材搬出前



石棺部材搬出前



石棺石材搬出前



石棺石材搬出状況



石棺石材搬出状況



石棺石材搬入状況

## (2) 石材組み合わせ確認・石材調査

石棺部材搬入後、石棺部材搬出時のマーキングを元に、各部材の組み合わせを確認し、併せて出来るだけ原型に復元できるようにプラスチックコンテナ内の小部材の接合調査を行った。その結果、新たに接合可能な石片は確認出来なかつたため、着手時にマーキングした石棺形状を構成する部材を接合・修復し、欠損部を新たに修復及び復元する事となつた。

写真 41 大塚古墳舟形石棺保存修復状況 2



石棺部材確認状況



石棺部材確認状況

#### (4) 石棺接合作業

石棺部材の組み合わせ確認後、まず数個の部材がある一定の大きさに接合し、その後石棺を伏せた状態で石棺内部の形状を想定した支持台（硬質発泡ウレタンで形を構成した。）に被せていくような手法で二次接合を行った。

接合に関しては接着剤としてコニシ製の「ボンド E-209」を使用し、補強材としてステンレス製の全ねじボルト（SUS304 相当品）を使用した。

また、接合面に関しては風化が激しい箇所に関しては、石材強化剤（OM-10）を刷毛にて塗布し接合前の石材強化を行った。

写真 42 大塚古墳舟形石棺保存修復状況 3



一次接合前組み合わせ確認状況



一次接合前組み合わせ確認状況

写真 43 大塚古墳舟形石棺保存修復状況4



一次接合前補強部確認状況



一次接合前補強位置マーキング



アンカーホール開削状況



接合面カッター設置



アンカーピン配置状況



エポキシ樹脂塗り付け状況

写真 44 大塚古墳舟形石棺保存修復状況 5



エポキシ樹脂塗り付け完了

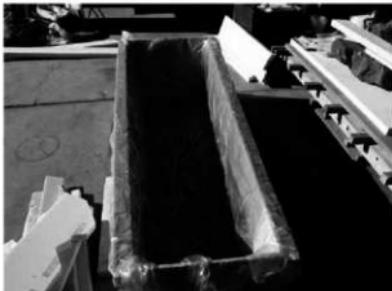


石材接合状況

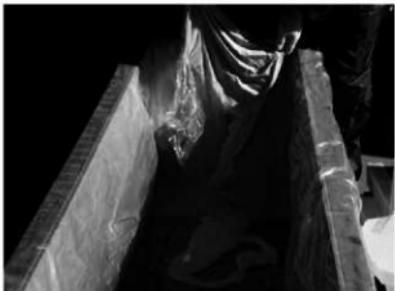
写真 43、44 に示すように部材をある程度の大きさ（作業員 2 名程度で動かせる大きさ）まで数石の接合作業を行った。

次に一次接合が完了した数ピースのブロックを想定された石棺の形状に組み立てるために形状を保持する支持台を硬質発泡ウレタンにて製作した。

写真 45 大塚古墳舟形石棺保存修復状況 6



支持台製作用木製型枠



発泡ウレタン充填状況



発泡ウレタン充填状況



発泡ウレタン充填完了

支持台製作完了後、支持台に一次接合が完了した部材のブロックを石棺を伏せた状態で組み合わせ、二次接合を行った。

写真 46 大塚古墳舟形石棺保存修復状況 7



石棺組立状況



石棺組立状況

## (5) 欠損部の復元作業

写真 47 大塚古墳舟形石棺保存修復状況 8



欠損部補強筋配筋状況



欠損部補強筋配筋状況



軽量エポキシ樹脂モルタル混練状況



軽量エポキシ樹脂モルタル混練状況

写真48 大塚古墳舟形石棺保存修復状況9



軽量エポキシ樹脂モルタル設置状況

軽量エポキシ樹脂モルタル設置完了

石棺欠損部を復元するため、復元される石棺の強度を確保する事を目的として、芯材として補強材（ステンレス全ねじボルト）を配置し、その周囲を高強度の重量エポキシ樹脂モルタル（ボンドE-209+珪砂）にて強固な層を作りその周囲を加工が容易な軽量エポキシ樹脂モルタル（ボンドE-209+プラスチックマイクロバルーン）で形成した。

写真47、48は石棺内部の擬土層下部の軽量エポキシ樹脂モルタル層の設置状況である。

写真49 大塚古墳舟形石棺保存修復状況10



欠損部補強筋配筋状況

欠損部補強筋配筋状況

その後、欠損している石棺底部及び埋葬者の上半身部に当たる部位の復元を行うため、写真49に示すようにステンレス全ねじボルトにより補強のための配筋を行った。

配筋に関しては、石棺吊上げ時に大きく力がかかる長手方向にφ16mmのステンレスボルトを使用し、その他の部分は、曲げ加工が容易なφ13mmのステンレスボルトを使用した。

写真 50 大塚古墳舟形石棺保存修復状況 11



配筋完了後、ステンレスボルト周囲に重量エポキシ樹脂モルタルを2～3層に分けて塗り付け石棺の大まかな形状を復元した。

#### (6) 摱石処理作業

欠損部の復元作業により石棺の大まかな形状を復元した後、その表面に摱石材（摱石用エポキシ樹脂サイト FX を粉碎した凝灰岩の石粉を混練したもの）を塗り厚2cm程度で塗り付け石棺表面部を復元する。この摱岩材は夏季で1～2日、冬季で2～4日程度でハンマーで叩ける程度まで強度が上がる。十分な強度まで強化した段階で、摱岩材表面をブロックハンマー等で叩いて削り、オリジナル部分を摱した表面に仕上げる。

その際に石棺下部は粗目な仕上げであり、石棺上部は細かい仕上げであるため、その点に留意して表面仕上げを行った。

写真51 大塚古墳舟形石棺保存修復状況 12



石棺底部擬石材設置状況



石棺底部擬石材設置状況



石棺底部擬石材設置完了



石棺底部擬石材設置完了



石棺底部表面仕上げ状況



石棺底部表面仕上げ状況

写真 52 大塚古墳舟形石棺保存修復状況 13



石棺底部表面仕上げ完了



石棺底部表面仕上げ完了

写真 51、52 に示すような石棺底部の表面仕上げ完了後、石棺を反転させ石棺上部及び石棺内部の擬石処理作業を行う。

写真 53 大塚古墳舟形石棺保存修復状況 14



石棺反転状況



石棺反転状況



石棺反転状況



石棺反転完了

写真54 大塚古墳舟形石棺保存修復状況15



木製作業台撤去状況



ウレタン支持台撤去状況



石棺上部擬石材設置状況



石棺上部擬石材設置状況



石棺上部表面仕上げ状況



石棺上部表面仕上げ完了

## (7) 樹脂含浸作業

風化により脆弱となった石棺部材に対して珪酸エチル系樹脂にアクリル樹脂を添加した石材強化剤を用い石材強化を行った。

ここで使用する石材強化剤は、珪酸エチル系強化剤であるワッカー社の「OH-100」とアクト社の「OM-50」を所定の重量比で混ざ合わせて作成する。

OM-50 とは MS-100 という商品名のアクリル樹脂（—100 はアクリル樹脂成分が 100% であることを示す。）と OH-100 を重量比で 50% ずつ混ざ合わせたもので、主たる用途は土壌強化に用いる。

近年、石材強化作業に上述した OM-50 を OH-100 でアクリル成分を 10% に希釈して作成した OM-10 を用いての処理が良好な強化状態（強化の具合と見た目の風合い：テカリ具合が少ない。）であるとの処理経歴（日南市堀川橋、東京都常盤橋など）から今回これを使用する事にした。

写真 55 大塚古墳舟形石棺保存修復状況 16



一次接合前強化状況



一次接合前強化状況



表面処理後石棺強化状況



表面処理後石棺強化状況

写真 56 大塚古墳舟形石棺保存修復状況 17



金属製品部刷毛塗り状況



石棺内部強化状況

## (7) 樹脂含浸作業（残存金属製品部）

当石棺表面には写真 5 6 に示すように一部鉄器が銹着しており、これを保存するためにアクリル樹脂（パラロイド B72 10% 溶液）を用いて樹脂含浸を行った。

写真 57 大塚古墳舟形石棺保存修復状況 18



鉄器銹着部クリーニング状況



鉄器銹着部樹脂含浸状況

## (8) 石棺重量測定作業

上述した石棺表面処理作業完了後、修復・復元された石棺の重量をロードセルを用いて計測した。

計測の結果、石棺の重量はおよそ 771kg と計測された。

その後、石材強化作業を行ったので若干の重量増加が考えられるが 780 ~ 790kg 程度であると考えられる。

写真 58 大塚古墳舟形石棺保存修復状況 19



石棺重量測定状況



石棺重量測定状況

## (9) 石棺納品作業

石棺の修復・復元作業が完了し鋼製展示台が完成した後、玉名市天水体育館正面階段下の仮展示施設設置予定場所に石棺及び鋼製展示台を運搬し、納品・設置作業を行った。

また、納品時に玉名市文化課により石棺の3次元計測用の画像撮影が実施された。

写真 59 大塚古墳舟形石棺保存修復状況 20



納品時 3次元画像撮影状況



納品時 3次元画像撮影状況

写真 60 大塚古墳舟形石棺保存修復状況 21



石棺納品・設置状況



石棺納品・設置状況



石棺納品・設置完了



石棺納品・設置完了

その後、石棺周囲に屋内展示施設を設置し、見学できるようにした。

しかしながら屋外での展示であるため温湿度等によるカビの発生及び昆虫や鳥類等による保存環境の悪影響が考えられる為、保存環境の改善が望まれる。

報告書抄録

ふりがな	たまなしないいせきちょうさほうくしょ						
書名	玉名市内遺跡調査報告書 11						
副書名	平成28・29年度の調査						
シリーズ名	玉名市文化財調査報告						
シリーズ番号	第41集						
編著者名	龍父雅史 菊池直樹 江見忠留						
編集機関	玉名市教育委員会						
所在地	〒865-8501 熊本県玉名市岩崎 163						
発行年月日	2019年3月26日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所取遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° °'	° °'	m <sup>2</sup>	
高岡原遺跡（A地点）	玉名市山田	43206	256	32° 56' 11"	130° 32' 28"		
淨光寺遺跡群跡	玉名市築地	43206	220	32° 55' 56"	130° 32' 07"		
築地堂跡（A地点）	玉名市築地	43206	212	32° 53' 12"	130° 32' 02"		
光音寺	玉名市大浜	43206	724	32° 53' 57"	130° 32' 49"		
高岡原遺跡（B地点）	玉名市山田	43206	256	32° 56' 14"	130° 32' 38"	2016年4月	
年の神跡	玉名市岱明町野上	43206	429	32° 55' 16"	130° 31' 07"	~	
五年野遺跡群（A地点）	玉名市玉名	43206	105	32° 56' 33"	130° 34' 21"	2017年3月	
春出遺跡	玉名市中	43206	436	32° 54' 48"	130° 32' 36"		
勝光寺古墳	玉名市岱明町高瀬	43206	598	32° 54' 25"	130° 30' 55"		
木屋西遺跡	玉名市岱明町野上	43206	461	32° 53' 31"	130° 32' 00"		
古聞遺跡（A地点）	玉名市築地古聞	43206	213	32° 56' 09"	130° 32' 14"		
古聞遺跡（B地点）	玉名市築地	43206	213	32° 56' 11"	130° 32' 12"		
下立願寺遺跡群	玉名市立願寺	43206	333	32° 56' 25"	130° 33' 12"		
鳥井原遺跡	玉名市立願寺	43206	268	32° 56' 15"	130° 32' 58"		
岱明町高瀬	玉名市岱明町高瀬	43206	600	32° 54' 26"	130° 31' 05"		
玉名平野遺跡群（B地点）	玉名市玉名	43206	105	32° 56' 46"	130° 34' 28"	2017年4月	
今足堂遺跡	玉名市岱明町下前原	43206	459	32° 55' 46"	130° 31' 40"	~	
高岡原遺跡（C地点）	玉名市山田	43206	256	32° 56' 15"	130° 32' 39"	2018年3月	
武田西荒廃跡	玉名市岱明町浜田	43206	574	32° 54' 36"	130° 30' 27"		
築地堂跡（B地点）	玉名市築地	43206	212	32° 56' 11"	130° 32' 01"		
山田神社門前遺跡群	玉名市山田	43206	223	32° 56' 41"	130° 32' 22"		
京塚遺跡	玉名市岱明町西照寺	43206	208	32° 56' 24"	130° 30' 35"		
古川遺跡	玉名市下池田	43206	367	32° 56' 22"	130° 35' 31"		
主な遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
淨光寺遺跡群跡	寺跡	中世	溝状遺構				
勝光寺古墳	古墳	古墳時代	周溝				
古聞遺跡（A地点）	包磁地	弥生時代後期	住居跡・土坑・ピット	弥生土器			
下立願寺遺跡群	包磁地	古代	溝状遺構	須恵器			
鳥井原遺跡	包磁地	弥生時代	住居跡・土坑	玉名都倉に 伴う講か			

玉名市文化財調査報告 第41集  
**玉名市内遺跡調査報告書 11**  
— 平成 28・29 年度の調査 —

平成 31 年 3 月 14 日印刷

平成 31 年 3 月 26 日発行

編集発行 玉名市教育委員会

〒 865-8501 熊本県玉名市岩崎 163

TEL 0968-75-1136・FAX 0968-75-1138

印 刷 (有)玉名民報印刷

〒 865-0015 熊本県玉名市亀甲 261

TEL 0968-72-2535・FAX 0968-72-4648



